

第2回東郷湖・未来創造会議 会議録

日 時 平成23年10月28日(金) 午後1時30分～6時
場 所 湯梨浜町役場 2階第1・2会議室 他

1. 開 会 進行：中本企画課長

こんにちは。定刻になりましたので、只今より第2回東郷湖・未来創造会議を開催させていただきますと思います。お忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。レジュメに従いまして進めさせていただきます。2のあいさつということで、会長あいさつとしておりますけども、会長が今、未来ウオークの関係で韓国の方に行って、韓国の協会と話をしてくるというようなことがあるので今日は欠席ということでございまして、申し訳ございませんが、あいさつについては割愛させていただきます。続きまして、町長の方からあいさつをお願いいたします。

2. 町長あいさつ

皆さん、こんにちは。今日は、お忙しいところありがとうございます。東郷湖・未来創造会議、今日は2回目の全大会ということで、これまで社会資本、観光・物産、それからイベントと3つの分科会でそれぞれ検討していただきました。その中で出てきた東郷湖の強みと弱み、それらを踏まえながら何をすべきであろうかという意見を出していただいて、それを今日、資料を拝見しますと事務局の方で一応何らかの共通項で大きなくくりをつくって、柱だてしてお示ししていると見せていただいています。



東郷湖の関係で、県の方もよく理解して、協力していただいています、どういうことを考えているか県の予算要求もあるので、要望をいただきたいというお話もごございます。実は、来年度から事業に着手しようと思うと、そんなに時間がないということもごございます。宝くじの関係であります地域活性化センターですとか、自治総合センターですとか、色々な機関の支援するお金を使おうと思うと11月がだいたいの申込期限になっております。ですから、ある程度今日の会議を踏まえて、来年向かうもの、或いは再来年向かうものという順番みたいなものもつくって、走りながらやっていくということが来年立ち上げるために必要だと思っております。来年、できればきちんと立ち上げたいと思いますのは、一つはマンガサミットということがあります。観光政策課に電話をして、マンガサミット関係の状況はどうかと聞いてみたら、知事は、来年はマンガ元年といいますか、年中いたるところでマンガに関わる取り組みが見れるような、そういう状態にしたいという夢を持っておられるようでして、担当課としても一生懸命やっていくというお話もごございます。その中で、また湯梨浜も何か関わっていく必要があろうかと思っております。そのように色々な分野で仕掛けを講じていって、来年ポツポツと、ある程度花火も上げながら取り組んでいくということが必要だと思っております。この間、おまとめいただいている項目を見まして、項目としては挙がっているけれども、実際にどのようにするのかというところの議論は必ずしも十分でない点ももちろんごございます。今後は、それらを色々な分野の皆さんと相談しながら、どのような方法があるのか詰めていく必要があろうかと思っております。たいへん時間のかかる作業でご負担をおかけしますが、町の未来をつくるために、皆さんのお力を貸してほしいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

(事務局：中本企画課長)

それでは、引き続きまして福井ファシリテーターがお見えになっておりますので、あいさつを含めて以降、この会議を進めていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

3. 福井総合ファシリテーターあいさつ

皆さん、こんにちは。ちょっと前が空いていると何かやりにくいなという感じがするので、後ろの方はできれば前の方に来ていただいて、それで、後から来た方は後ろにということで詰めていただけますか。

8月4日でしたよね。暑い日でしたけれども、第1回の全体のワークショップをやらせていただきました。その時に、やり方としては「SWOT分析」、研修会でやったことがあるよとかですね、そういう方もおられます。ほとんどやったことがないという人ばかりだったんですが、短期間の中でだんだん慣れていただいて、ちょっと具体的に言うと結構いい線いっているんじゃないかなという気がするんですね。いい線いっているというのは、かなりお話の議論というのが、皆さんが一夜漬けにした割には東郷湖のことについて結構関心を持つようになっていただいたということだと思えるんですけどね。でも、いい感じできているのかなと思います。その後、分科会をやっていただいて、どんなことができるかという議論を進

めていただいて、私も読ませていただきました。夢のある話、それから、今すぐにでもやらないとダメだという緊迫感のある意見から色々なものがある訳ですけども、今日は、その分科会で出ているこんなことをやろうとか、あんなことをやろうというのを、ちょっと専門的に言いますと構造化をする。後でちょっと詳しく、やり方等について皆さんにも問題提起いたしますけれども、やっぱりなかなか実行プランというか、プログラムだとか、プロジェクトをつくるというのは大変なんです。決まったことをやれと言われると得意という人は多いと思うんですね。給料もらっているからしょうがないとかですね。これをやらないと明日クビだと言われるからやらないきゃということで、言われたことを、決まったことをやるというのは結構得意ですよという人は多いんですが、決まっていないことをこれから作りあげるといのは、なかなか難しいんです。それも、独裁的にすべての権力をやるから、別に町長のことを言っている訳ではないですよ。何でもやってもいいぞと言われてやる場合は意外と、独裁ですから何だってできるという感じになるんですが、違った考え方を持っている、色々な思いを持っている人が何か一緒になってつくろうとするとこれがまた大変なんです。要するに、手順が違うということですね。思いは同じなんだけど、一歩踏み出そうとすると違うことを言い始めるんですね。そんなことが色々起きてくる訳であります。物事を始めるにはそれなりの同意というものがありますし、手順というものがある訳ですから、そういうものも発展していかなくてはいけない。そういうところまで踏み込んで、初めて自分はこのプロジェクトに関わっているとか、参加しているとか、その中の一員だという、いわばしたい感といいますかね、ワガコト化と言いますけれども、ワガコト化というのが起きてくる訳であります。



今日は、その重要な一日でありますから、皆さんが今まで分科会等々でこんなことをやろうとか、あんなことをやろうとか言い合いをしている中で、段々他人の言っていたことがなかなか面白そうだなと吸い寄せられるということもあると思うんですね。そういう時間の経緯とともに、自分の中に熟成されてきているものもあると思うんです。ですから今日は、皆で議論した3つの分科会の議論を構造化する、そういう作業に今日は入ってもらいたいなと思います。簡単に言うと、アイデアをグルーピングするとか、それから、先程町長が言いましたけれども、どう考えたってこれが先あってこれが次だろうというような、そういう形の順序付けみたいなのをすることが大事だと思いますので、要はそういう作業だということのを頭に置いていただきたいと思います。

まず、3分科会がどんなことを考えているかを知るということも大事ですよ。もちろん、皆さんに資料が配られて、他の分科会が何を考えているかということについては目を通して、目を通したというのが一番曲者なんですね。目は通したけれど、何も分からないというのがほとんどである訳です。今日はまず、自分たちの分科会が何を議論してきたかということについて発表してもらいます。発表者は、たった10分間、細かい発表内容の項目は皆さんの手元に資料が配られていますから、資料を見ながらこれは実現できるよとか、これは自分も好きだとか、これは同感とか、これは反対とか、何かそういうものがあると思うんですよ。そういうものを自分の中に取り入れていただく時間が最初であります。その後、私の方から、若干、総合ファシリテーターですから、別に独裁者ではないですけども、それを聞いて、こんな問題があるよとか、こういうことがあるよとか、今後こういう形でまとめていったらどうですかというサジェスションをさせていただきます。その後に、皆さんで2時間程分科会に分かれて議論していただきます。1分科会で、皆で同じテーブルについてやろうというやり方もいいですし、2つのチームに分けて意見を集約するというやり方でもどちらでもいいです。人数が少ない場合は1チームでもいいですし、人数が多い場合は2チームに分けてもいいです。理想は、やっぱり5、6人が1チームというのが一番いいです。多くても7、8人です。でも、色々今までやってこられたやり方というものがありますから、それをやっていただく。それで、2時間の中で休憩タイムをそれぞれが工夫をして取ってください。そして、その2時間の中でプロジェクトの構造化ということについて、とりあえずトライをしてみる、トライをする仕方については、私の方でサジェスションをします。その後に、また皆さんに集まっていただいて発表していただきます。発表していただいて、その発表を受けながらお互いに質問がある、「社会資本チームの〇〇ですけども、イベントチームの〇〇についてはどういう意味なんですか。」というようなやり取りをいくつかしてみたいなと思うんです。いずれにしても、最終的にはこの3つの分科会が同じ思いでつながらないと結局バラバラのことを考えているということになってしまいますからね。ですから、どこかにそれは集約されなければいけない。それは、以前に皆さんが汗を流してくれたSWOT分析で、強み、弱みというのがありましたよね。その強みをこうすればもっと強くなる、弱みはこうすれば克服できる、そういうシナリオがある程度頭の中で整理されてきているんですが、具体的なアクションプランについては、それをどういうふうに組み立てていくかというのは、

今、入り口のところにまだいるとさせていただきたいと思うんですね。ですから、厳格にタイムキープをいたしますので、それぞれのチームが10分間ぐらいで自分たちの分科会の説明をするというところから入っていきたいと思います。

それでは、社会資本整備チームをお願いします。

(中島委員：社会資本整備チーム長)

それでは早速、当チームでの議論を発表させていただきます。中島と申します。まず、社会資本整備チームに与えられた課題としましては2点ありまして、湖周の周遊コースをどのように構築するのかということと、後は、湖周の環境で大事な花と緑をどういう具合につくっていくのかということ、この2点についてチームで検討をさせていただきました。資料を見ながらはなると思うんですが、簡単にご説明をさせていただきますと、一つひとつ読み上げていく時間はありませんので、大枠になりますがいくつもの意見が挙がっております。

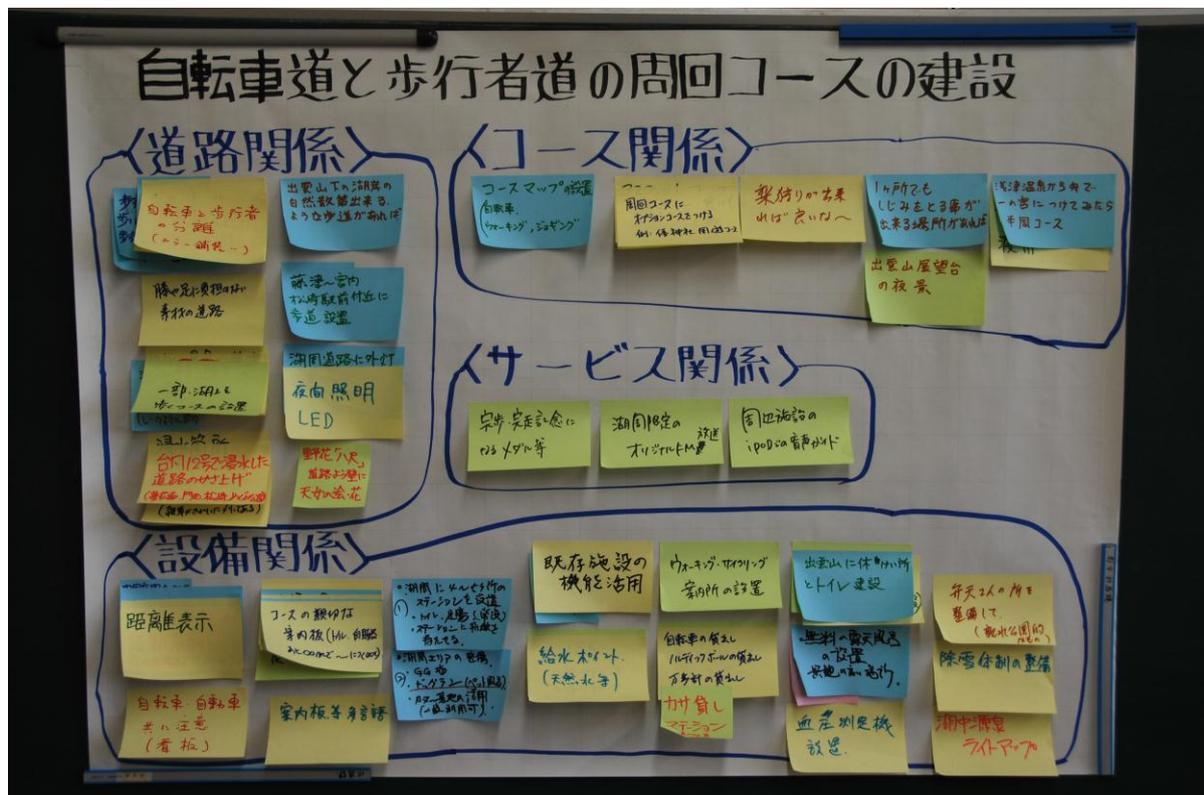


社会資本整備チーム検討結果発表

どれも採用すればそれなりに面白だろうなというコンテンツというか、内容なんです、まずはやはり社会資本整備ということもありまして、大きくは設備関係が非常に多い状況です。実際こちらに区分してありますけれども、道路をどういうものにするのか、例えば先生も言われていましたが、車歩道をどのように分離するのか、コースを本当に分けるのか、色々なご提案が挙がっています。後は、実際に設備をご利用いただくのに関して、どういう設備が必要なのか、ただ使っていただくだけではやはりいい印象が与えられないので、いかに快適に使っていただけるかどうかということ、例えば、そんなにヘビーにウォーキングとか、サイクリングとかをされるという方でなくても、気軽に利用できるようにレンタルスポットを用意する必要があるんじゃないかとか、そういう道路ではないその他の付随の設備についての意見もたくさん挙がっております。後は、実際にコースということで、東郷湖でウォー

キング、サイクリングに限定して考えますと、東郷湖を突っ切るコースはできない訳ですから、どういう巡回コースがご紹介できるだろうか、そういう案内であったり、表示であったり、中には近くの湖周の観光地ないしは観光スポットと呼ばれるようなところを、点在しているものを「ここは〇〇コース」というくくりで、地域でご紹介するようなご提案などもありました。サービスということで、実際にはウォーキングとか、サイクリングのコースとかということで直接的には関係しないんですが、それをさらに快適に演出する設備ですとか、コンテンツとしていくつか意見が挙がっているという段階です。

全体的な周遊コースの意見のまとめになるんですが、設備関係で費用を案分しないと実現ができないことも非常に多い印象を受けておりますが、中には先程からありますように、すぐに着手できるような、今まで意識していなかったかもしれないけれど、意識すればできるだろうというようなことも十分あり得ると思います。例えば、同じ一つの看板をつくるにしても、車歩道併用で看板を設置するとか、色々な併用の仕方ができるのではないかという意見も挙がっていることがまとめになります。



自転車道と歩行者道の周回コースの建設／社会資本整備チーム検討結果

次に、若干付随をしておりますが、どちらかという町民の意識ですとか、後はどういうイメージとして東郷湖の湖周を考えるのかという中で、この花と緑というのを社会資本整備チームでは考えさせていただきました。こちらと同じように、大枠での説明になりますけれども、同じくこちらの方も施設・設備関係ということで、例えば並木を整備したりだとか、実際に体験するような釣り堀だとか、湖に親しみを持てるようなビオトープをつくって、周

辺の生態系ですとか、動植物を観察するような学習の機会ですとか、小さい子どもの時から地元の方に植え付けるのに役立つような設備などもご提案として挙がっております。後は、花と緑ということなんですが、植える花をきちんとイメージできるような統一のものにするだとか、春夏秋冬という季節感も非常に重要になりますので、その季節感を活かして、例えば東郷湖周を4つに分けて春のコース、夏のコース、秋のコース、冬のコースというようなご提案もありましたし、少し変わったところで言うと、歩いたり、自転車で移動していただいたりというところに食べれる樹木、実がなる樹木を植えて、実際に収穫するだとか、道中の楽しみ方を演出できるような、あくまでセルフエンjoyしていただく形ではありますけれども、楽しんでいただけるような環境をつくったらどうかというようなテーマごとの内容が挙がっております。後、同様にきれいな花、豊かな緑がありますというだけでは、やはり紹介するにはつらいだろうということで、実際にどのように紹介したり、楽しんでいただくのかというコンテンツですね。例えば皆さんが樹木だとか、花だとかということに知識がある方ばかりでしたら何の心配もないんですけれども、どうしても不得手な方、初めてこの東郷湖にお越しただいて、それに触れていただく機会を持った場合に、せっかくであれば地元の方が地元ならではの言葉でご紹介をさせていただくような機会があれば、さらに印象が深まるのではないかとということで、グリーンマイスターというような制度ですとか、後にご覧いただいた花を何か記念にさせていただいたり、その後、印象付けるようなコンテンツが皆さんの方からご意見として挙がっております。後、実は結構多かったのは、皆さんが花と緑というのが環境ということもありまして、普段からご興味をお持ちの方が多いということで、一部花と緑だけではない意見も挙がっておりまして、湖周だけではなくて、湖上、湖面も、水生植物も含めてもっと積極的に活用してはどうかとか、実際にウォーキングなどのきちんとしたデータを出して、数字で根拠を立てて健康増進の目標にさせていただくとか、せっかく温泉がありますので、ウォーキング後に温泉といかに関連性を持たせるのかというようなご意見も挙がっております。

こちらの方のまとめなんですが、臨海公園やめぐみのゆ公園など周辺環境の一部はすでに整備されている環境がありますので、それらのある程度統一感を持って、どういうテーマでここはやっているのかというところを取りまとめて、ないところについては新たに構築をしていくということで、一部進行形の部分も使いながらさらに強化をしていくというようなご意見が大多数だったというところでございます。



花と緑豊かな湖畔づくり／社会資本整備チーム検討結果

(福井総合ファシリテーター)

ありがとうございました。何か随分ゴールがかなり見えてきているという感じもしましたが、提案の中には、湖周の遊歩道を一部湖の中にしてもいいんじゃないとか、管理をどうするのか、水位が上がった時にどうするのか、何か色々問題が出てくると思いますけど、でも非常に面白い発想もありましたよね。それから、コースの中に温泉、足湯を入れながら、そこにサービスセンターのサービス機能を集積させて、できるだけサービス機能がポイントポイントにあって、トイレの心配もないとか、中には半周コースみたいな、実は私もウォーキングが好きなんですけれども、時速6 kmなんです。だいたい遅い方でも4 kmです。ですから、1周12 kmとするとゆっくり歩いても3時間、割と正規のウォーキングのスタイルをやっている人でしたら2時間とこういうことになりますね。2時間は時間が取れないよとか、温泉に来ただけで何か評判のコースだから少し歩いてみようとか、1時間だったらいいよとか、こういうこともあるでしょうね。それから、ソフトの方にはかなり切り込んでいますよね。要するに、龍鳳閣だとか、ゆ〜たうんだとか、そういう町の公衆浴場がゴールになりますみたいなね。場合によっては、温泉旅館がゴールになりますみたいなね。ちゃんと温泉と結び付ける。それが、健康増進、つまり汗をかいた後にはちゃんと温泉にも入れる。ウォーキングウェアも持ってこない人には貸してあげてもいいですよという仕組みが温泉旅館の中にあるとかですね。龍鳳閣やゆ〜たうんの中にあるとかですね。このあたりも、他でやろうとすると、改めてインフラを整備しようとするとうどんお金膨らんでいくん

だけでも、今ある既存の温泉の機能とか、今ある機能をうまく集約していけば、何か他のところではできないような、そんなイメージになっていましたね。それから、1周12kmありますから、先程四季折々の湖畔を花、緑で考えてもいいんじゃないかというお話がありましたけれども、これも地政学的に考えた方がいいんじゃないかという気がするんですね。石山の方というのは、やはり山辺になりますね。山に非常に隣接しているエリア、それから、温泉街の方は地域に隣接しているエリア、龍鳳閣や長江の方は昔の湖畔のエリア、そういうものを少し考えながら、それぞれの植生やそこで楽しめることみたいなものをね。例えば石山の方だとか、桜小学校付近はやっぱり桜だという感じがあるのかなど。でも、燕趙園や長江の方とかは、どちらかというとも秋になったらコスモスがたくさん咲いているとかね。春になったら芝桜が一面に咲いているとかね。何か最近の言葉で言うとワイルドフラワーみたいなね。そんな感じですね。温泉の方になると、せっかく県が県立公園として公園整備をやっていきますから、都市公園整備ですね。そうすると、むしろ先程おっしゃったように、果物系のものとかね。そういうものが公園整備と一体となって、花木というか、果樹というか、そういうものが少しあると何か温泉に来た人が少し歩いて行って、それはタダでなくてもいいと思うんですね。そういう感じが聞いていて私も共感するイメージが湧いて参りました。社会資本整備チーム、期待できるなという感じがいたしますので、引き続きこれをもっとオンラインにするというか、どこにも負けない鳥取県の宝にしてやるぞ、日本の宝にしてやるぞというような、お金を掛けなくてもアイデアで色々なものを使いながらやるぞということが見えてくるといいかなと思いました。期待しております。

それでは、次は観光・物産の活性化、顧客満足度開発チームをお願いします。

(宮川委員)

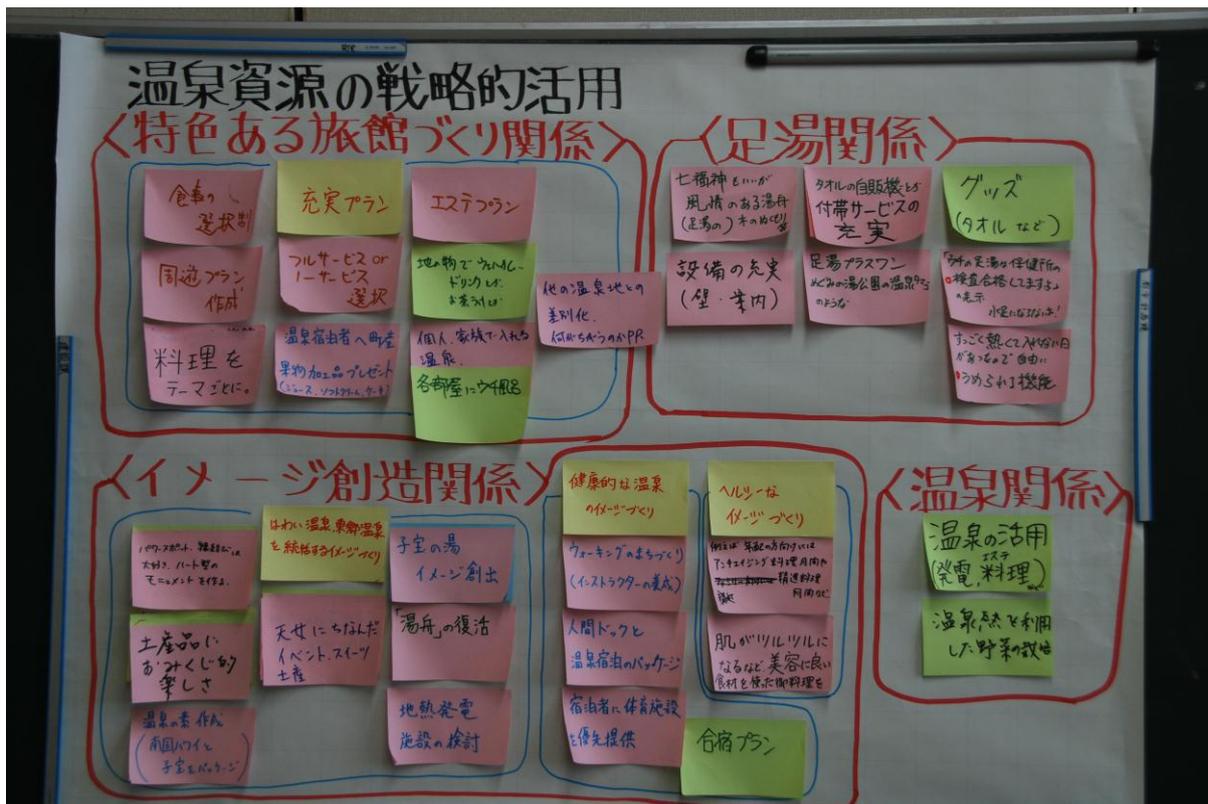
そういたしますと、宮川が今まで話し合ったことを掻い摘んで説明したいと思います。観光・物産の活性化、顧客満足度開発チームということで、観光・物産の活性化を顧客満足度というキーワードで考えてみました。



観光・物産の活性化、顧客満足度開発チーム検討結果発表

観光につきましては、温泉資源の戦略的活用、それから、物産につきましては、地産地消システムの構築という柱でまとめられるような話が出ておりました。温泉資源の戦略的活用ということで、こちらの方にまとめております。それぞれ説明しますと、特色ある旅館づくりということで、考えられるようなことが出ておりました。内容につきましては、お客様のニーズに基づいた運営ということで、食事のコースが選べるであるとか、サービスがフルサービスとかノーサービス、ガソリンスタンドでもありますけれども、そういうことが選べる。それから、女性がやってくると男性がついてくるということですので、女性向けのエステプランの設定ということも出ておりました。それから、旅館に行きますとお茶請けにお菓子が置いてありますけれども、そういうもので湯梨浜といえればコレというようなお菓子がないんじゃないかと。倉吉の〇〇とか、琴浦の〇〇とかじゃなくても、このあたりの旅館に泊まったらコレと出てくるようなそういうものを開発するというのも必要ではないでしょうか。それから、料理をテーマごとに設定して、いくつかの旅館が共同でそういうテーマのプランを出すことができないだろうか。健康だとか、ヘルシーだとかというテーマでもいいですし、天女御膳だとか、そういうものを用意してもいいのではないかとということがありました。それから、イメージ創造関係ですけれども、イメージというのは、東郷温泉やはわい温泉の温泉というものを形容するイメージというのを確立していったらいいんじゃないかなということで、縁結びやパワースポットというものでこのあたりはたくさん由来というものがありますから、それを活かしたようなイメージが定着させられないかということがありました。それから、一ノ宮の祭神の下照姫命というのは安産の神様ですので、子宝の湯とか、そういうようなキーワードで売り出したらどうかということがありました。それから、温泉を統括するイメージとして、町長が説明しておりましたけれども、天女をキーワードにしてはどうでしょうか。例えば、PRにはすべて天女を使うとか、キャラクターを設定するとか、冠に天女の名前をつけるとか、そういうようにPRに全部天女を使うとか、天女にちなんだイベントを開催するとか、土産物などにも天女をキーワードとした土産物の開発をしてはどうでしょうか。土産物でもうまいければ、先程の旅館で出すお菓子にも使えるかなということも出ておりました。それから、燕趙園ではチャイナドレスを貸し出しして写真を撮ったり、結構皆さんが利用しているサービスですけれども、うまくイメージが定着すれば天女の衣装みたいなものを貸し出して、写真撮影ですとか、天女気分が味わえるとか、そういうこともできるのではないのでしょうかということが出ておりました。それから、健康的な温泉のイメージづくりということで、ウォーキングであるとか、サイクリングであるとか、そういうもののイメージで東郷湖を売り出したらどうかということが出ていました。ウォーキングのインストラクターを養成して、宿泊施設に相談すればレクチャーが受けられるとか、そういうことを整備してはどうかということが出ておりました。それから、大学の合宿とか、そういうものを誘致するように、安価な料金設定をした合宿向けプランであるとか、町内の旅館に泊まっていただきますとグラウンドや体育館が割安な町民価格で借りれますとか、何かシステムをつくって誘致ができないかということが出ていました。それから、ヘルシーなイメージづくりというということで、ヘルシーというより美容でしょうかね。女性に興味を持って

もらえるような、何かこう肌がツルツルになるとか、美容にいいとか、コラーゲンたっぷりとか、そういうような食材を使った料理プランを開発して、それを打ち出すということは考えられるんじゃないかということが出ておりました。それから、足湯関係ということで、温泉への親しみ、気軽さを演出するというので、風情のあるセッティングとか、先程花を使った足湯ということも出ておりましたけれども、花に囲まれていたり、足湯に花が浮いていたりとか、そういうことも一つ面白いかなと思いました。それから、付帯サービスの充実ということで、タオルの自動販売機とか、気軽に入れるシステムというのがあったら利用しやすいのではないかと、訪れやすくなるのではないかと思います。それから、足湯プラスワンということで、温泉たまごなどがつくれるように、つくれるようにはなっているんですけど、たまごはどこから買ってくるのかということがありますので、簡単にたまごが手に入るような自販機とか、そういうものを設置してはどうかということが出ていました。それから、足湯には水虫がうつるとか、色々な風評被害がありますので、それを払拭するための何か説明板とか、看板とかを設置してはどうかということも出ておりました。後、温泉関係ということで、温泉を利用した発電とか、エステ、料理、そういうものを開発できるんじゃないか、温泉熱を利用した野菜の栽培とか、何かそういうことをすれば差別化できるのではないかということがございました。



温泉資源の戦略的活用／観光・物産の活性化、顧客満足度開発チーム検討結果

地産地消につきましては、第一に新商品の開発ということで色々と意見が出ていました。地元の農産物を活用したスイーツをつくる、例えば野花豊後を使った季節限定スイーツ、そ

バスや合宿、自動車学校の生徒などを取り込めないかということがありました。システムの事業化、仕組みづくりとして、そこで食べる、買ってそこで食べる、土産として買うといういくつかの切り口で、想定する場面を分けながら開発することが必要ではないかということがありました。最後に、天女というキーワードがありましたけれども、天女の凧をつくって上げるような取り組みができないか。それから、貸自転車、今もあるんでしょうけれども、充実するようなことで、足湯めぐりとか、ソフトクリーム食べめぐりとか、何でも自転車があったら便利ではないかということがありました。

(福井総合ファシリテーター)

ありがとうございました。観光というと色々アイデアが出てきますよね。私たちが全部ユーザーになった時に、あそこに行ったときにあれが良かったねとか、これが良かったねとか、こういうのがあればもっと良かったねとか、日常的に皆、思いがありますから、そういう意味ではどんどんアイデアが出てくるということだと思います。今朝、NHKの番組で燕趙園が出ていましたね。地元の方も出ておられましたね。日本最大の中国庭園ですよとか、地元のおじちゃん、おばちゃんたちが出てきて、野花豊後の梅ですよとか、シジミですよとか、そういうことが出てきます。毎日、毎日、全国のそういうものを紹介する訳じゃないですか。テレビ番組というのは必ず、物が出てきて、おいしいものがあるって・・・、だんだんスッと終わっちゃう訳ですよ。その時に、何か一つですね、このシジミは何で大きいかわかりますかと逆にアナウンサーに聞くんですよ。これは天女の涙なんですよとかね。それから、野花豊後はここに伝わる天女の忘れ形見なんですよとか、何かそういうことを言う訳ですよ。ここは天女の町ですよと言ったら、聞いた人はなんだあそこは、湯梨浜町はどういうところだとすぐに i p o d で湯梨浜町とたたく訳ですよ。そうすると、天女の町ということがどんどん出てくると。野花豊後と言われても、その瞬間分らないんですよ。シジミ、大きい・・・宍道湖かと思う訳ですよ。宍道湖の親戚の東郷湖みたいなね。そういう連想しかおきない。そこに何か、観光戦略という部分で言うと、先程の自転車のコースをつくりましょうとか、ウォーキングコースをつくりましょうとか、東郷湖があるからできる訳でしょ。そういうことを含めて、何かそこにもうちょっと連環をさせながら物語みたいなものがあると、きっと今一つひとつのアイデアそのものが、もう少し色々セールストークになり得るといえるか、そのあたりのところを感じたところがあります。また後で話します。

それでは、次にイベント・コンテンツ開発チームをお願いします。

(小林委員：イベント・コンテンツ開発チーム長)

イベント・コンテンツ開発チームの小林と申します。よろしくをお願いします。イベント・コンテンツチームの方は2回のチーム会議を開きました。そこでも色々な意見が出まして、なかなかまとまりができたかなというところがあったんですけども、まず検討の結果、参加体験価値の高いイベント創造というのと、町民参加の共育・協働システムの構築という柱でまとめていこうということに決まりまして、そのように検討を進めてきました。参加体験価値の高いイベント創造ということで、イベント全体で見ますと今までも結構イベントがあるんですよ。有名なイベントがありますので、その中の既存のイベントを充実していくや

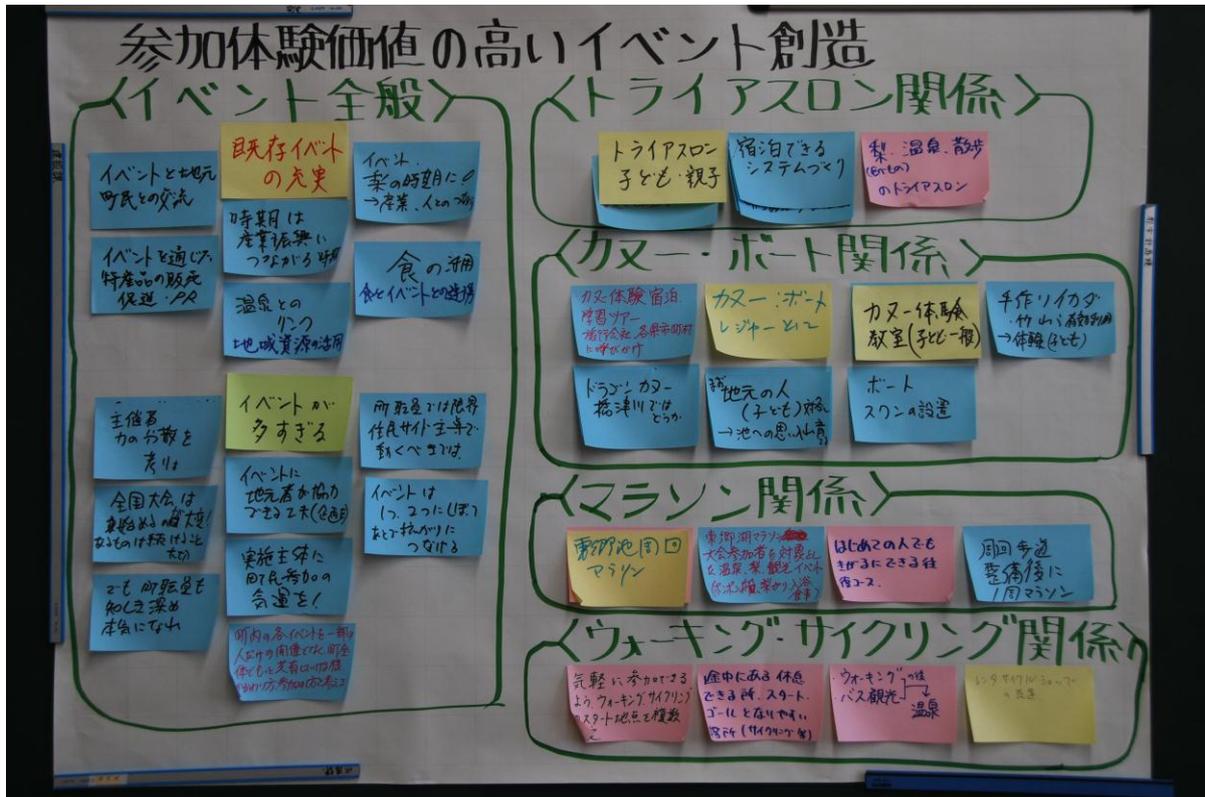
り方と、また新しいイベントを創造してやっていくという2点について考えました。



イベント・コンテンツ開発チーム検討結果発表

既存のイベントの充実ということで検討していく中で、今、既存のイベントは、例えばトライアスロンだとか、ベテラン卓球だとか、そういうものがあるんですけども、地域の特産品の時期とずれていて、地域を発信できることが少ないですよ。例えば、梨だとか、シジミだとか、梅だとか、それらの時期とずれておまして、せっかくイベントをしていただくのなら、グラウンド・ゴルフ発祥地大会でも、梨がある時にしていただければ梨の本当の美味しさも味わっていただけますし、シジミの美味しさも味わっていただけるということで、イベントをできれば産業振興につながる時期に開催してほしい、開催していった方がいいんじゃないかと。その時に、イベントを通じて特産品をPRしながら販売していくということですね。それともう一つは、イベントが何回もあるとそこに参加、お手伝いする人はある程度限られてきます。その中で、ある程度イベントを集約して、一緒にできるところは一緒にやって、負担が少しでも減れば、やってみようかということになるんですけども、そのあたりのことを考えたかどうかという話も出ました。それから、トライアスロン関係では、今、大人が基本的に多いんですけども、もう少し一緒に来ている家族の方も楽しめるようなトライアスロンを進めていったらどうかということがあります。それと、せっかく来られたんだから、湯梨浜町の温泉旅館に泊まっていただけるような、受付する時にせめて何人かは泊まってくださいよというようなことを進めたらということですね。それから、カー・ポート関係でいきますと、東郷湖は湖ですからカーとか、ポート関係はあるんですけども、やはり地域の子ども、大人も体験、経験して、良さを自分たちで分かって、来られる人に教えたり、提供できるようなことをして行って、自分たちで経験してやっていくというようなこ

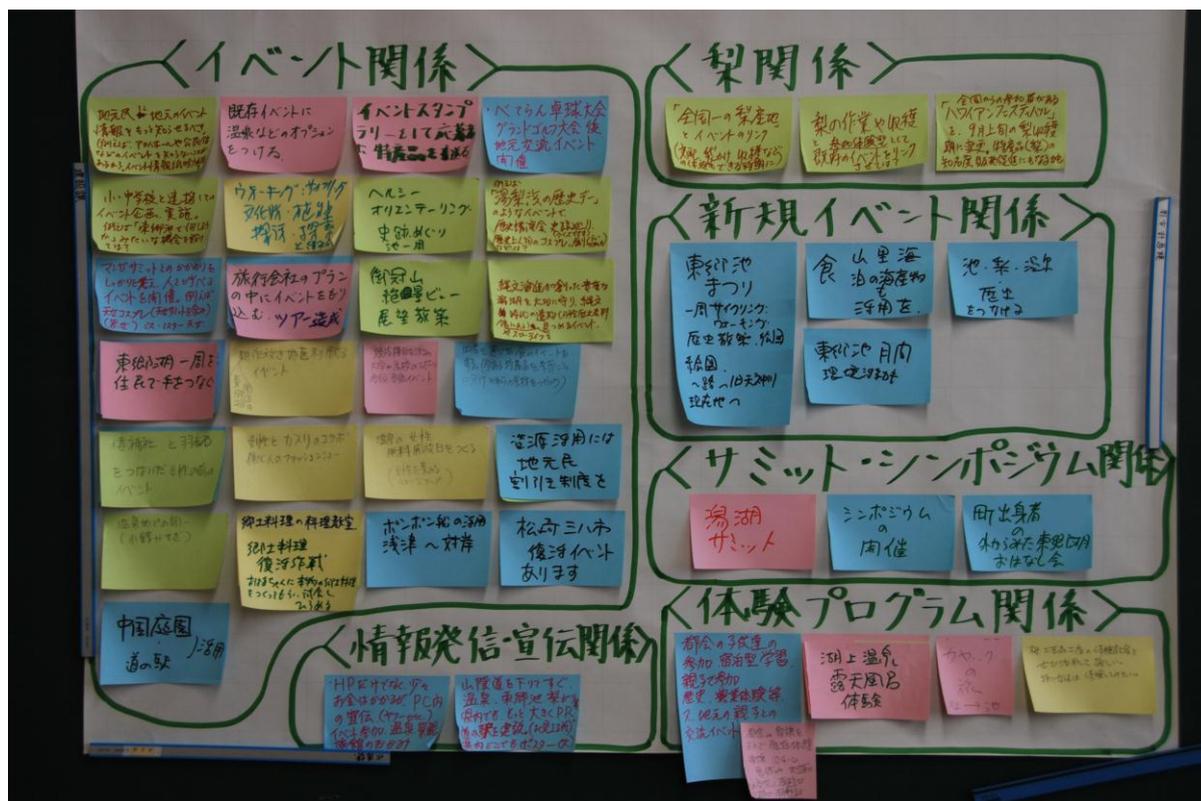
とですね。それと、ドラゴンカヌーについて、今は湖の中に向かっていっているんですけども、例えば橋津川でできれば両側から応援もできるし、皆が参加できるような格好になると思うんですけども、今は行って帰ってくるのを待つという格好ですので、そのあたりを考えたかどうかというような話も出ておりました。それと、マラソン関係ですが、1周12kmの東郷湖があるんですけども、新しくマラソン大会をしたらどうかということがありました。前の東郷町の時にはあったということなんですけども、日本海マラソンがありますので、そのあたりのところをもう少しこちらまで引っ張ってきて、湯梨浜町を回ってもらうとかそういうことを考えるのも一つあるんじゃないかなということ。それから、ウォーキング、サイクリングについては、先程の社会資本整備チームの発表で道路の整備とか色々出てきましたので、そういうものができればどんどんイベントを行っていければと思います。その中には、先程も出ましたけれども、途中で休憩して足湯だとか色々なことができる施設ができれば、ウォーキング、サイクリングにはこういうイベントをもってこれるんじゃないかなと感じています。



参加体験価値の高いイベント創造／イベント・コンテンツ開発チーム検討結果

湯梨浜町には色々なものがあるんですけども、歴史的なものも多いです。東郷荘絵図だとか、昔からの地形が残っていると、先程出ました伯耆一ノ宮とか色々あります。そういうところと歴史を学習するツアーを組んでもいいんじゃないかと思います。それから、御冠山絶景ビュー展望散策ということで、その一環として御冠山から湯梨浜町を全部見渡して、東郷湖を見て、どういう具合に感じるかということもしてはどうかと思います。それ

から、イベントなどで来る人には、やはり郷土料理というか、この湯梨浜町でなければ食べられない食材を提供して、それを食べていただいて、毎年同じイベントをしても食材がある時期に行けば食べれるということが分かれば、どんどん来ていただけるような料理の提供を考えて、イベントを開催してはどうかということです。それから、先程ありましたけれども、燕趙園の活用ということで、色々な今ある施設、温泉や観光施設、歴史的な施設、そういうものをもう少しアピールして、イベントに取り入れたらということです。それから、イベント・梨関係ということで、梨がある時期にイベントをもってくるということです。新しいイベントとして話が出たのが東郷池まつりということで、東郷池全体の中でマラソンもする、ウォーキングもする、サイクリングもする、一日かけて、できるものを東郷池の周りで皆が集ってすると。歴史が好きであれば歴史の解説を聞いたり、歴史のある場所に行ったり、皆が東郷池の周りに集まるというイベントを一つ立ち上げていけば、東郷池に対して関心を持って皆さんが集まってくるんじゃないかという話もありました。それから、体験プログラムということで、都会の子どもや親子をどんどん呼び寄せて、またリピーターとして帰って来てもらうというようなことをしてはどうかということです。



参加体験価値の高いイベント創造／イベント・コンテンツ開発チーム検討結果

町民参加の共育・協働システムの構築ということで、先程お話ししましたけれども、湯梨浜町は自然景観がいいですし、歴史的、文化的資源もたくさんあります。その中で、そういうものを中心としたツアーですとか、イベントをしていっただらと思っています。それに合わせて、展示会だとか、講演会を行っていくということで、歴史関係をどんどんアピールして

いただくと。それからもう一つ、テーマごとのコースをつくってはどうかと思います。先程出ましたけれども、湖周に花を植えるとか、季節の花の選定をして回ってもらうとか、健康、歴史、体験などそれぞれのコースをつくって、それに向かってイベントなどをやっていったらどうかということです。それから、システムの構築ということで、やはり人材を育成していかなくてはならないと。人材を育成するためにはどういうことをやっていかなくてはならないかということで、湯梨浜検定を行うとか、歴史などの講習会をやっていくとか、ボランティアガイドの養成をしていくとか、そうすることが必要ではないかということです。

以上が私たちの取りまとめです。



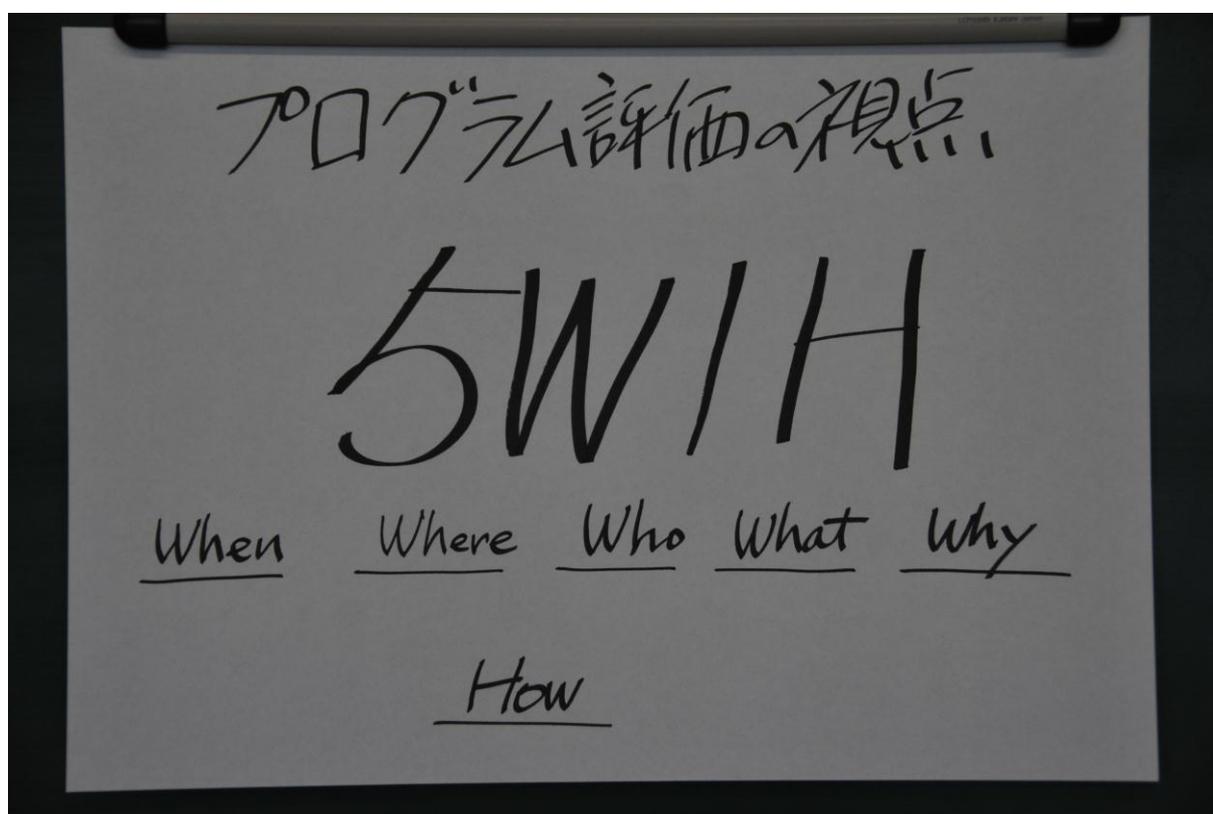
町民参加の共育・協働システムの構築／イベント・コンテンツ開発チーム検討結果

(福井総合ファシリテーター)

どうもご苦労様でした。随分たくさんアイデアが出ていますよね。イベント・コンテンツということで、色々なところに目配せしていますよね。ハードのことも、それから、観光のことも、そういうことも全部目配せしたアイデアになるだろうと思いますけれども、これから先というのは、社会資本整備チームにまとめていただくという側面と、観光・物産、顧客満足度というね、どちらかというマーケティングですね。そういうところの分野については、観光・物産チームにがんばってもらおうというふうに渡すものは渡してですね、イベントというのはやっぱり時間と場所。今までにない何か特別なことをやろうという、そういうことに自分たちの力を集中していくということが大事なのかなという具合に思いますよね。でも、色々な引き出しが出てきたんじゃないかなと思いますね。今、イベント・コンテンツ

チームから出ている話は、社会資本整備チームの方にも観光・物産チームの方にも引き取ってもらった方がいいようなものがたくさんありますよね。そういうことを感じました。

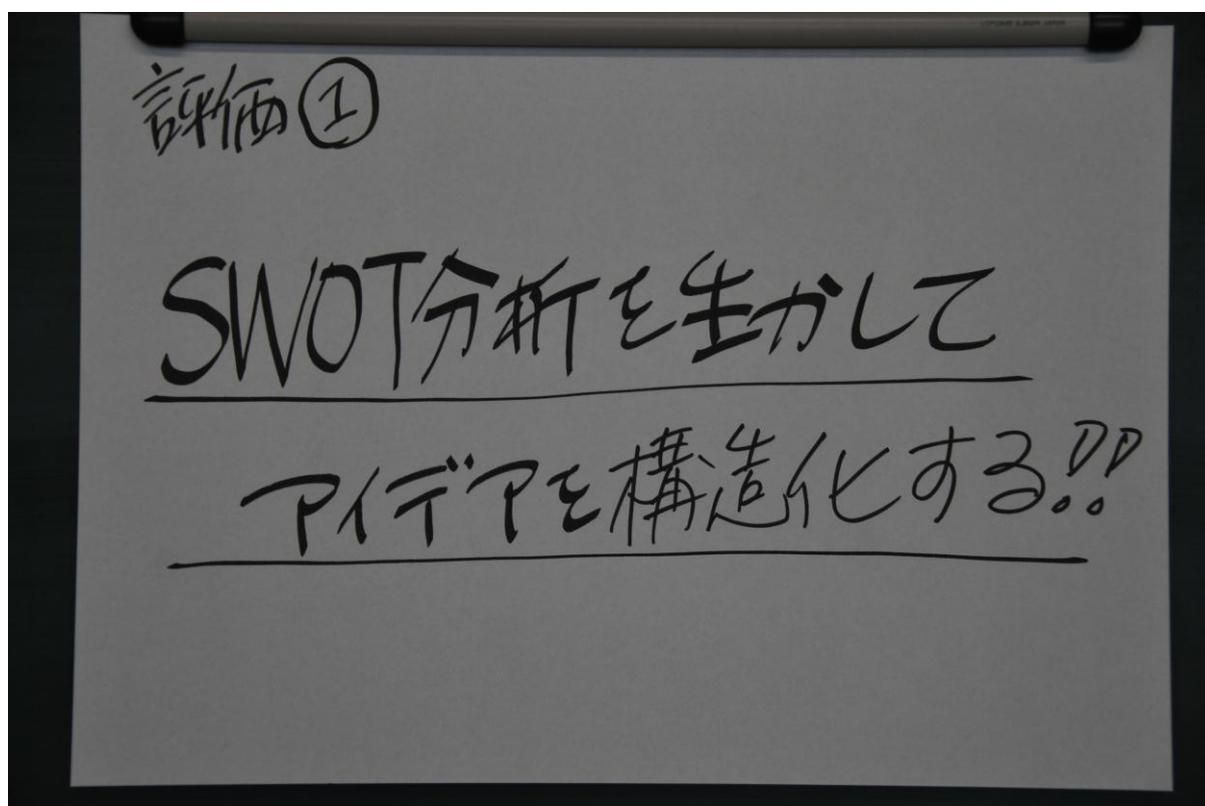
それでは、今、色々とお話を聞いて、早速皆さんのプランづくりに入ってもらいたいんですけど、少し私の方からこれからどういうふうなやり方をするのがいいのかということを書いてください。少しお話をしますと、ここから先はプロがプロなりのやり方というのがあるんですね。例えば、プログラム評価の視点というのがありますけれども、皆さんがよくご存じのように、「5W1H」ということがあります。どんなアイデアも、プロジェクトも、縦、横、高さをもっていないといけないんです。だから、「5W」というのは、「When」「Where」「Who」「What」「Why」、皆さんよく知っていますよね。「1H」というのは、「How」、どのようにするのかですね。一つのアイデアを考える時に、いつ、どこで、だれが、何のために、どういう理由で、どういう方法でやるのかということと一緒に、全部ワンセットで考えるというのを実はプランというんですね。



プログラム評価の視点／福井総合ファシリテーター

ですから、これをやろうとすると、私のようにキャリアを10年積むとか、15年積むとか、色々な失敗や成功を重ねないとなかなかここまで到達できませんから、これを皆さんに強いることはできませんが、やっぱりどこかの頭の片隅に、あれがいい、これがいいというのとは、何か自分が一ユーザーになってあれがあるといいとか、小さい子どもがあれが欲しいとかね。そういうレベルを少し超えて、もう少しプランニングというところまで踏み込むためには、どこかで「5W1H」というようなものをね、学校で習ったことがあるで

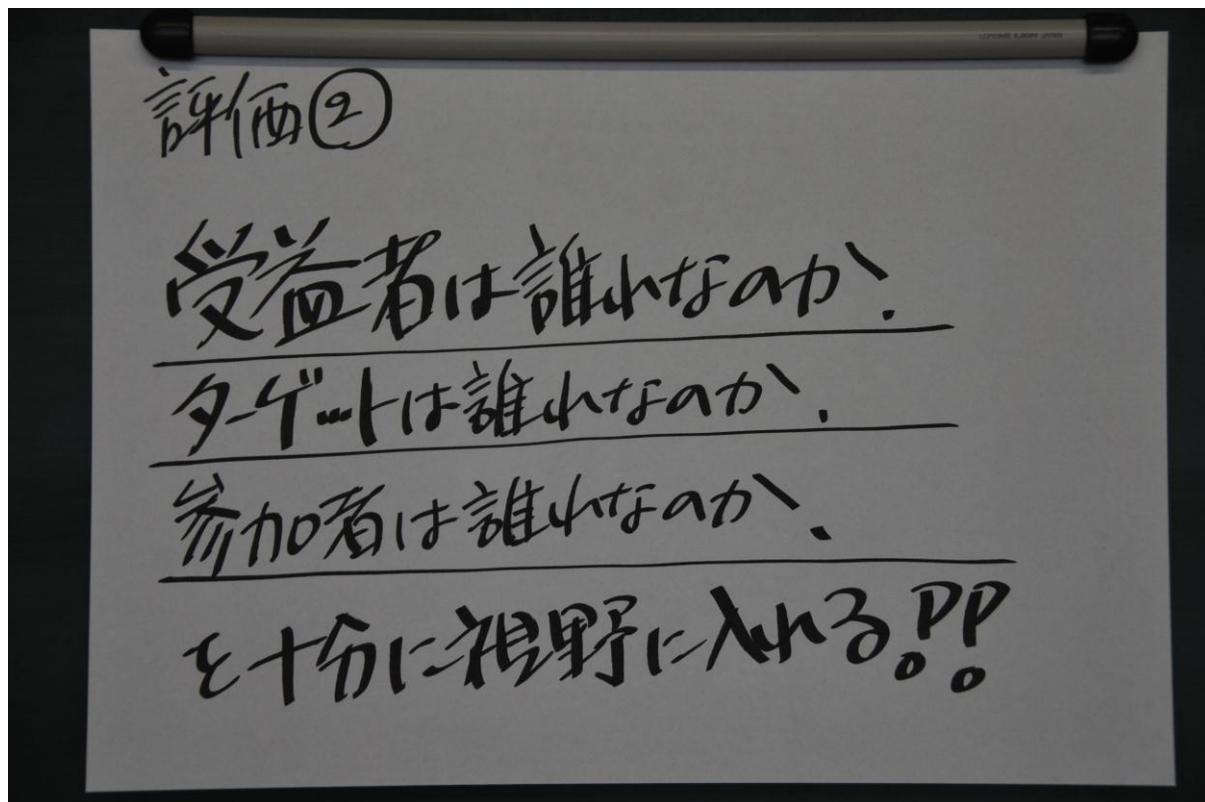
しょ。これを常に心がけるという方向でいってもらいますが、そこまでやるとプロになってしまいますから、プロを追い越していただく必要はないんですが、ただ若干、今言ったことをもう少し丁寧に説明をしていくとご理解いただけるんじゃないかとフリップを準備したんですが、まず自分たちが今議論していることが、ある議論の事象にずっと入って行って、そこに引っ張られてしまう傾向が出てくるんですよね。それは、必ずできるかもしれないし、もしかしたら意味がないことを議論している部分もあるかもしれない。そういう時には、必ずこの「SWOT分析」のところに立ち返ってください。今、壁に貼ってありますよね。「強み」「弱み」「強みをさらに強くするための施策」「弱みを克服するための施策」、そういう分析を自分たちでしている訳ですから、そのストーリーに乗っかる、乗っからない、そのところに活かせる、活かせない、そのあたりのところをまず考えていただきたいということで、必ず「SWOT分析」のところに立ち戻ってくださいということなんです。



プログラム評価の視点／福井総合ファシリテーター

それから二つ目は、「受益者は誰なのか」「ターゲットは誰なのか」「参加者は誰なのか」ということを十分に視野に入れるということ。こういうのがあればいいよ、誰がそれを受益するんですか。町民ですか。観光客ですか。それとも周辺の県民ですか。わざわざそのためだけに来てくれている人ですか。そのあたりのところをしっかりと考えていないと、これは公共整備でいけるのか、民間ががんばってやればいい話なのか、それともボランティアで対応すればいい話なのか、そのあたりのところの縦、横、高さが出てくると思うんですよね。ですから、誰がそれに参加するのか、この事業は誰のためにするのかということについては、

必ず考えていただきたいと思います。今、皆さんはこの町の活性化創造をやっている訳ですから、どちらかという町民のため、観光客のため、町の発展のためということですから、そのあたりのところの仕分けというものをやっていただきたい。



プログラム評価の視点／福井総合ファシリテーター

それから三つ目の評価は、「タイムスケジュールと場所性をセットアップする」、これは非常に重要なんです。先程のイベント・コンテンツチームから言うと、来年はマンガサミットというのがあるぞと、これにうまく乗っかろうと町長から話がありましたよね。その次の年、2013年には都市緑化フェアというのが鳥取であるんですね。これも一部、東郷湖がネットワーク会場になっている。そういうのもうまく活用できないかとかですね。それから、皆さんのアイデアの中に、藩倉サミットをやらないかとか、天女のサミットができないかとか、潟湖のサミットをできないかとか、色々な話が出ていますよね。そういうものをやるタイミングというのが必要になりますよね。ですから、そういうタイムスケジュールとか、場所性というものを少し考えることが大切になります。後で、皆さんには東郷湖の地図を事務局の方で準備をしてくれていますので、東郷湖の地図を見ながら、自分たちのアイデアを東郷湖の地図の上に書いてみるとか、どこで、何を、どういうふうにするのかということももう少し固まってくるんじゃないかということになりますね。

評価③

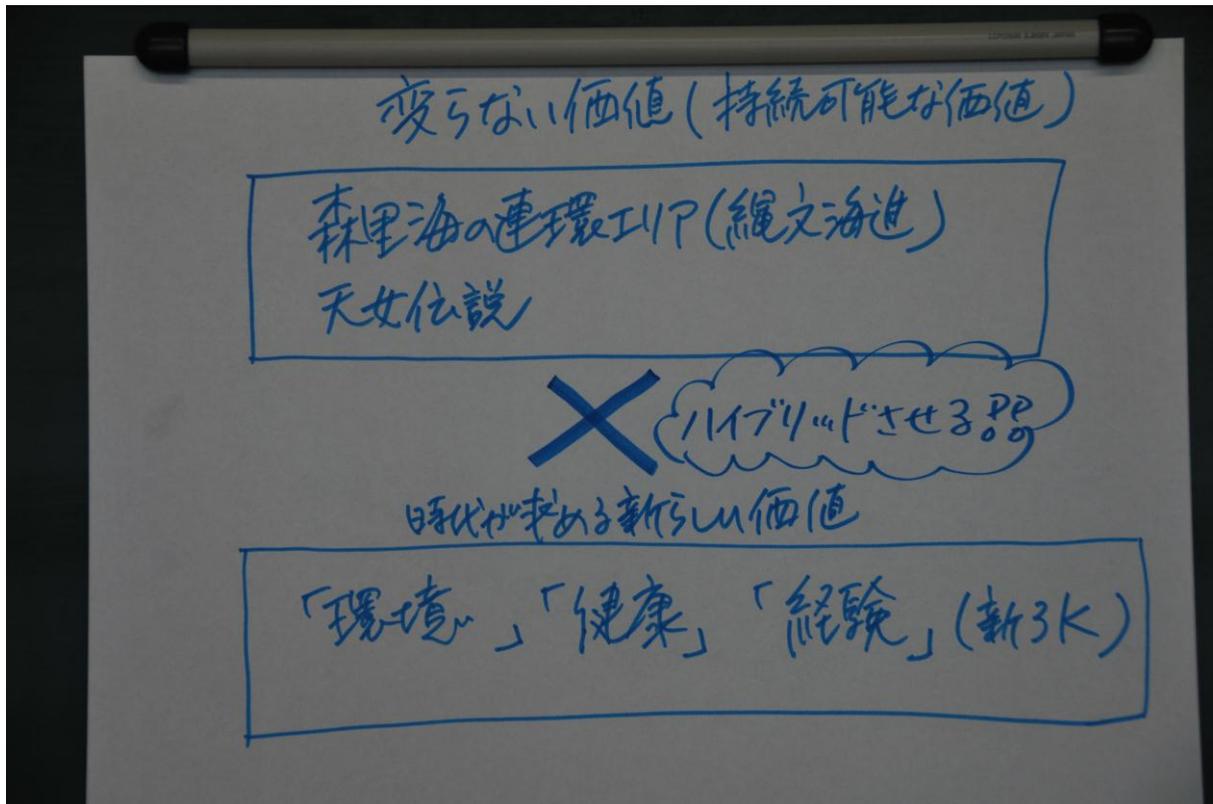
タイムスケジュールと

場所性をセムアップする!!

プログラム評価の視点／福井総合ファシリテーター

それから、もう一つ大事なこととして皆さんに考えてもらいたいなと思っているのは、変わらない価値、つまりこの湯梨浜町に持続する持続可能な価値、ずっと変わらない価値、そういうものと、これから求められている価値、これから求められている大切なこと、こういうものがうまくハイブリッドされる、掛け合わされるといことがとても大事ですよね。変わらない持続可能な価値というものが何かというと、やっぱり皆さんが「SWOT分析」でもやってきたように、この東郷湖というのは、縄文海進でつくられた奇跡の湖で、湖底から温泉が湧き出ている美しい湖ということですよ。そういうものと天女伝説、天女というのは、東アジアに共通する2000年から3000年前からずっと続いているお話なんですよ。中国に行っても、韓国に行っても通じるんですよ。莫高窟にいても通じる。そういう意味で、こういうずっと続いている価値ですね。こういうものをどういうふうに大切にするのか、持続させるのかということと、これから21世紀に日本が取り組む、誰もがとても大事な価値だと思っているもの、「環境」「健康」「経験」、これは最近、「新3K」と言われています。前の「3K」はちょっと嫌な「3K」でしたね。「きつい」「きたない」とか、何か嫌な「K」でしたよね。ところが、「新3K」というのは、「環境」「健康」「経験」、これはどこも狙っています。湯梨浜町だけではありませんよ。世界中が狙っています。特に先進国。工業化経済だけで、物をつくって利益を得る、富をつくるということにかなり限界がきている。そういう中で、先進国が全部狙っているのが「環境」「健康」「経験」なんです。「新3K」。それと、変わらない持続可能な価値、これがハイブリッドされた時に、ユニークな湯梨浜町シス

テムというのができるんだということを少しこれは頭に置いといていただきたい。実は、これが「SWOT分析」の中に入っていますよね。そういうふうに思ってください。



プログラム評価の視点/福井総合ファシリテーター

そうしますと、それぞれの3つの分科会について、これはコピーして皆さんに差し上げますから、各チームで持って行っていただきたいんですけども、まず社会資本整備チームですね。これは、東郷湖の地図の上にプランを乗せてみてください。これから2時間、議論する時に全部書き込まなくてもいいですけども、どこの話をしているのか、ちょっと湖の上を歩きたいなという時にどこがいいのか、そういうところですね。それから、全体にストーリー性のある計画に仕上げてください。ということは、先程言った森里海の連環とか、天女の話とか、そういうものをちゃんとうまく織り込んでいくことがひとつ大事だなと思います。それから、1年間を通じて利用する人たちの姿をちょっと思い浮かべてみてもらえませんか。できれば、ハードの施設というのは、いっぱい、絶え間なく、数日間だけたくさん人が来て、後360日は誰もいないという施設をつくってはいけない訳ですから、365日がうまく回るような、先程話のあった花を湖畔に植えるというのはそういう作戦ですよ。そういうことをちゃんと考える。それから、観光チームとイベントチームからたくさんアイデアが出てきていますけれども、そこにも目配せをして、要するに社会資本整備チームの中に入れる。それから、国、県、町の事業推進のレイヤーを構造化する。これは、皆さんの資料の中に、見方は後で林さんに説明してもらいますが、そういう資料が載っていますので、それを参考にしてもらいたいということで、社会資本整備チームにこれを差し上げます。(資料)

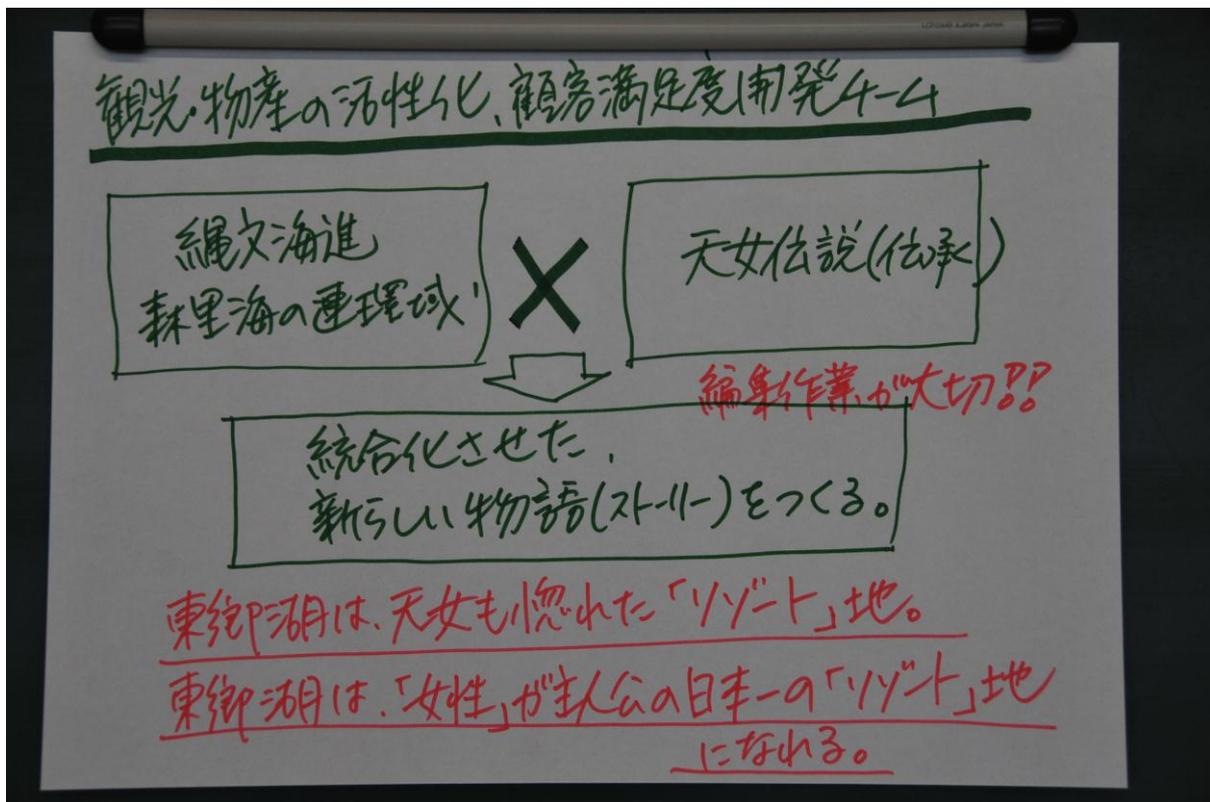
社会資本整備チーム

- ① 東郷湖の地図の上に計画(プラン)を乗せる。
- ② 全体にストーリー性のある計画に仕上げる。
(森里海の連環) ↔ (天女伝説)
- ③ 1年間を通じて、利用者^④人達の姿を描く。
- ④ 観光チームとイベントチームのアイデアと連携する。
- ⑤ 国・県・町の事業推進のリーダーを構築化する。

社会資本整備チームの方向性／福井総合ファシリテーター

次に、観光・物産の活性化、顧客満足度開発チームです。これは、なかなか難しいんですよ。マーケティング、特に民間がやらなくてはいけないことがいっぱいあるんですよ。今日集まった観光・物産チームの人の中で、旅館をやってるよとか、何か商売やってるよという人はちょっと手を挙げてください。<あり> なかなかこれについては、民間でいうと経営責任が伴いますよね。こんなこと言ったけどぜんぜん儲からない、顧客満足の前に会社が倒産してしまうというような話になりますよね。だから、アイデアは出るんだけど、観光・物産の活性化とか、顧客満足度開発というのは難しいんです。マーケティングがいる。それから、市場調査や顧客満足度をちゃんと知っていないといけないということになりますから、なかなか難しい。そこで、今、申し上げましたけれども、縄文海進、森里海の連環域、それから天女伝説、先程社会資本整備チーム言いましたけども同じですね。これを活かした何か編集作業がとても必要だなと思います。その時に、これらを統合化した新しい物語、これは私ね、町長が天女の話をしたのがとてもグッときているんです。この話はかなりあるなど。つまり「東郷湖というのは、天女も惚れたリゾート地」だったんですね。要するに、ついつい湯浴みをしたくなっちゃったんですね。それは何かというと、湖底から温泉が湧き出ている、昔はまだ下水が入っていませんからきれいだったんですよ。それから、海と直結していますから、氾濫ははしたるうけれども、いつもきれいに浄化されている。そういうものだと思いますね。ですから、東郷湖は天女も惚れたリゾート地で、天女の存在から言うと中国 3000年の歴史とか、4000年の歴史とか、それぐらいある訳です。それで、「東

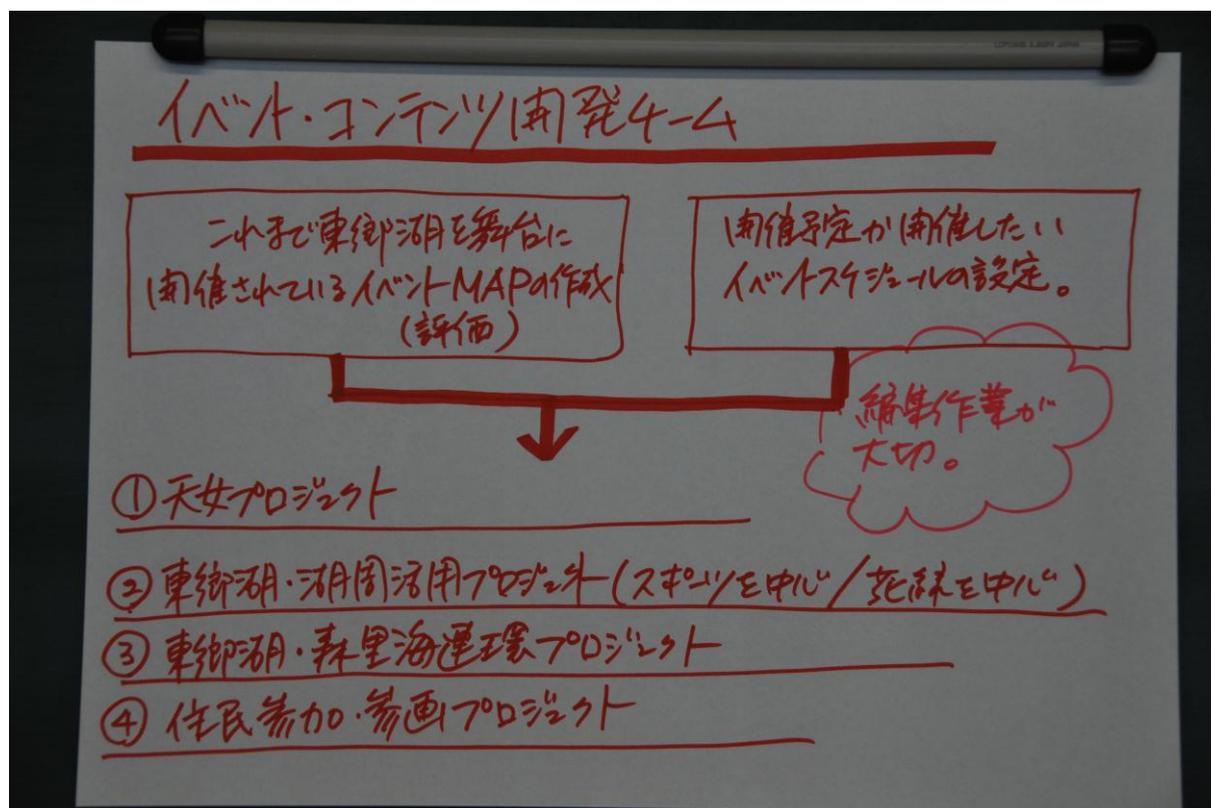
郷湖は女性が主人公になる、そういうリゾート地」にできるんじゃないかと私はそう思うんです。ですから、ここは東郷湖の観光戦略の中に、天女というものをちゃんといれてみたらどうかと。例えば、東郷湖に打ち上がる花火がありますよね。あれは天女へ届けという一種の鎮魂のオマージュであるとね。天女さん、帰ってきてくださいというのかもしれない。それから、何か風をつくろうという人がいましたよね。風も天女に対する一種のフックですよ。どうぞ帰ってきてください。降りてきてください。それから、一つの天女に対するオマージュですよ。そういうものとして考えていくと、結構今やっていることがみんな何かつながっていくんじゃないかと思えますよね。先程言いましたように、シジミは天女の涙だと。子どもたちをおいて天に昇っていくために流した涙が、あんな大きなシジミを生んでいるんだみたいな話になってくるとちょっと話が違ってくるぞというね。そういうものなんじゃないかと思えますので、いっぱいあるアイデアで何か抜けるかもしれませんが、少し天女をベースにして観光・物産戦略、顧客満足度開発のストーリーづくりをやってみたらどうかと思います。それではこれをお渡しします。(資料)



観光・物産の活性化、顧客満足度開発チームの方向性／福井総合ファシリテーター

それから、イベント・コンテンツ開発チームです。これも先程の説明の中に色々ありましたけれども、やっぱり今まで東郷湖を舞台に開催されているイベントの評価、マップづくりがちょっとなかったですね。これをやると、これは活かした方がいいとか、これはもっと大きくできるとか、何かそういう話ができますね。それからもう一つ、開催予定とか、開催したいとかというイベントのスケジュール、マンガサミットとか、都市緑化フェアとかも入っ

ていますよね。それから町長が天女サミットをやりたいと言っていますよね。そういうようなことを含めて、ポイントは天女プロジェクトと関連したらどんなスケジュールになるのか。一番いいのは、天女サミットみたいなものをいつやろうとかかですね。それから、東郷湖・湖周活用プロジェクト。スポーツとか、花・緑、それをむしろ、どういうイベントをいつ、どのような形でというのを考えていただく。それから、東郷湖・森里海連環プロジェクト。これは、環境教育だとか、歴史文化を学ぶための湯梨浜検定だとか、そういうものをもう少しこのオンリーワンになるような、皆で湯梨浜検定を受けよう、そうすると小学校6年生ぐらいの子どもが湯梨浜検定2級みたいなものを取って、3級のおじいちゃんに「ダメじゃないか、もっと勉強しなきゃ。」とかね。そういうものをつくりあげる必要があるんじゃないか。それから、住民参加・参画プロジェクト。これは、ボランティアの話とか、そういう問題をもう少しイベント支援みたいな形でどうやるのか、こんなことをちょっとフォーカス当てながら整理、整頓してみると全体がもう少し見えてくるんじゃないかなという印象を持ちました。これも差し上げましょう。(資料)



イベント・コンテンツ開発チームの方向性/福井総合ファシリテーター

時間がどんどん過ぎてしまうと次へ入れないので、これから2時間程かけて皆さんに議論していただきます。ちょっと林さん、皆さんが1回議論したものを整理したペーパーがありますよね。この見方を説明してください。

(事務局：林)

事務局林でございます。8月の第1回会議以降、皆さんにたいへんお世話になって、多く

のご意見や提言を出していただきました。なかなか事務局の力不足といえますか、十分でなかった部分もありまして、若干、福井さんの思うところまでいかなかったとありますが、最終的に福井さんにご指導いただいて、大枠として取りまとめてみました。資料につきましては、ワーキングチーム提案事業一覧というものがあろうかと思えます。こちらを見ていただきますと、事業名、手法・内容ということで、今、それぞれのチームの方からご意見をいただいているものをまとめることができるものはまとめてみて、適当かどうかは分かりませんが、事業名を付けてその手法・内容の整理をしております。先程来、福井さんの方がおっしゃっていますが、「SWOT分析の結果」というか、その方向性を大事にする必要があるということで、一つ評価基準という枠を設けています。これは、東郷湖の強みとか、弱みを分析して、弱みを克服するためにはどのような施策をすればいいかということで、その部分については3つのキーワードがあったかと思えます。逆に、強みをさらに発展させていくためにはどのような施策をすればいいか、これも同じように3つないし4つのキーワードがあったかと思えます。個々の事業がこれらの評価基準に対して、どの項目が合致するのだろうかということを事務局の方で整理をしまして、こちらの方に入れていただいております。また、同じように誰が実施主体なのか、誰が受益者になるのかという整理も併せてさせていただいております。色々なことがくまなくできたらよかったですけれども、想定される事例を考えまして、実施主体、受益者についても入れさせていただいております。これから先、議論をしていただく上で、当然ながら財源という部分が必要になってきます。今まで話し合いをしていただく時は、とにかくアイデアを求めるとということで、財源のことは考えてなくていいですとお話をさせていただきましたけれども、具体的に詰めていくとなれば財源のことが必要になります。現段階で、事務局の方で十分把握できなかったとありますが、全部は入れておりません。皆様方の方がむしろご存知な面もあるかと思えます。そういうものを整理した時に、該当するであろうものについては入れさせていただいておりますので、これから先、チームごとに議論していただく時に参考にしていただければと思います。以上でございます。

(福井総合ファシリテーター)

それでは、これから3分科会に分かれて2時間議論していただきますけれども、一応事務局の方で東郷湖の湖周の地図と湯梨浜町全体の地図を用意していただきました。これに、具体的な場所性みたいなものを考えながら議論できますね。それから、泊が載ってないということがあれば困るので、広域の湯梨浜町全体のものを用意させていただきましたので、ネットワーク型で、もう少しここまで行くなど、例えば社会資本整備チームが、湖周12kmだけじゃなくて何かテーマを持った形でもうちょっと入っていったらどうだと。舎人川を歩きながら今滝の方まで行きたいとか、何かそういう話になった時には全体図も使いながら議論してください。意外と地図は大事ですよ。地図を見ながら議論した方が、色々なことが整理できるんじゃないかという気がしますので、どうぞ皆さんががんばって議論してください。

<ワーキングチーム会場>

社会資本整備チーム・・・第5会議室

観光・物産の活性化、顧客満足度開発チーム・・・第1・2会議室

イベント・コンテンツ開発チーム・・・第3会議室

これから2時間議論していただきますので、その中で皆さんが自由に休憩時間を取っていただいて、ここには4時45分に全員集合してください。前にも言いましたように、色々な形で議論はポストイットに書いて、それを見せ合いながら議論していくんですよ。こういう訓練を是非しながら、そして最後には発表者も決めていただいて、自分たちの議論の整理したものを発表していただきます。その発表を受けながら、皆さんでやり取りも若干やりたいたいと思いますので、最後に1時間程時間をいただきたいと思います。5時半には終わるようにいたしますので、ご協力お願いいたします。



アイデアの構造化を行う／社会資本整備チーム



アイデアの構造化を行う／観光・物産の活性化、顧客満足度開発チーム



アイデアの構造化を行う／イベント・コンテンツ開発チーム

(福井総合ファシリテーター)

皆さん、どうもご苦労様でございました。先に集まっている人たちにも言いましたけれども、完璧なプランをつくることを考えている訳ではありませんので、やっぱり方向性とか、全体の流れを皆さんで議論したものを発表していただいて、その後は、優秀な湯梨浜町の職員を中心に整理整頓をして、議論の方向付けみたいなものを12月の最終回にまとめる。一部は、町長が申し上げられたように、11月末までに助成金の申請をしなければいけないところもあるということなので、今まで出ているものの中から、町としての行政的対応をしていただくということで、そのあたりをお任せいただきながら、それぞれの分科会でどんなことが議論されかをちょっと発表していただくということになります。5時半までと言っているのに、もう既に5分前みたいなことになっていますね。時間がありませんけれども、社会資本整備チームから議論のイメージを話していただきたいと思います。時間は、10分ぐらいをお願いします。

(中島委員：社会資本整備チーム長)

それでは手短かに説明をしますと、まず1周コースということで、必要最低限の管理箇所が多分必要だろうということで、後は受付も含めて、ウォーキングステーションですとか、グッズ、受付、そういう集積をする場所をどこにしようかという議論を始めましたら、実はこの赤いところが僕らの中では一応スポットと呼んでいる、お客様が例えば物を返却したり、借りれたり、そういう行動ができるような箇所になっています。



こちらのセンターと書いているところは、現状として今、道の駅燕趙園で使われているスペースを有効活用できないだろうかということで、倉庫になっているスペースを一部開放していただいて、そこに若干ですけれど、多分ここはセンターなので要員を配置していただか

後もう一つ、湖上の遊歩道というのを周遊コースの目玉の一つという形で考えられないだろうかということで、ちょうどルートの中のセンターからそんなに離れていないところ、ご参加いただく方にはある程度すぐ行っていただくようなところに、湖の中に棧橋をちょっと入れたようなルートをつくって、是非歩く方は必ずここが通れるというような意味でも近いところにこういうのをつくったらどうだろうかという話になりました。それと、センターを中心に色々なものを集積させる方がいいだろうという考えで進んでおりますので、一部更衣室だったり、そういう機能も付けなくてはいけないと思いますし、各箇所とも基本的にはほとんど駐車場の心配はないスペースになりますので、唯一ここ（出雲山展望台）の新設については人的な配置もありませんので、ここは一部意見が出ていましたが、万が一気分が悪くなったり、そういった安全上の管理の問題から、案内掲示板を置いたり、資料の配布スポットをつくったり、無人ではあるんですけども、センターまでの直通の電話を置くような形で対応ができれば、十分コースとして一連で整備ができるんじゃないかと思います。後は、あやめ池、ハワイ夢広場、旅館組合、実はここも管理棟新設ということで書いているんですが、これはめぐみのゆ公園のところになってしまっていて、今、足湯や駐車場などはあるんですけども人の配置がないので、ここも似たような、例えば電話回線なり、無人の案内スペースみたいなものを最低でもつくる必要があるのかなと感じています。

それから、コンテンツの方なんですけど、3月からのベースで言うと野花の梅もあるし、桜も結構あります。5月になるとアヤメもあるということで、7月、8月についてはやっぱりヒマワリがいいんじゃないかということで、ハワイのイメージもありますし、実はこのあたり（東郷湖北側）がちょっと花でいうと手薄になります。ちょうどこのあたりに新設をして、ヒマワリのスポットになるようなものをつくってはどうかという話になりました。それと、センターを中心に左右にコースを組んでいけば、往復のコースにはなりますけれども、ご自身にあった距離を設定できるコース組みになりますので、必ずしもすべてを巡回しなくても、一部スポットからスポットという利用の仕方も十分この中ではできていくんじゃないかと考えています。どうしてもセンターが中心になってしまうので、できれば全体を見ていただきたいという意味では、反対側の弁天さんがあるところに湖上歩道とは違うんですけども、ヨシがいっぱい茂っているところを何とか利用して、自然道というか、歩道ではないんですけど、弁天さんまで下りて本当にネキを歩けるような道みたいなものがつくれば、要するにアスレチックみたいな感じで、クロスカントリーみたいな感じで、こちらは本当に楽しんでいただけるようなスペースにしたらどうだろうかと思います。両端にそういうスポットがあることで、周遊もしやすくなるんじゃないかというご意見と調整をしております。後、薄いところでいうと、6月にアジサイと書いていますけれども、旧羽合町の町花ですね。ここに（上浅津地内）ふれあいセンターあじさいというのがあって、せっかくであればここは初夏から夏にかけてアジサイで、それから、このあたりも丘陵公園のような感じになっているので、全般的に既に木が立っているところを伐採する必要はないんですが、松崎の山陰合同銀行のところから桜小学校のあたりまでは1m先が湖というような場所ですので、そこに新たに高い木を植えたりというのは非常にナンセンスじゃないかということで、低い

ところには低いものを、何も無いという訳にはいきませんので、低いところには低いものを植えようということで、桜つながりで芝桜を植えて、絶えずどこにいても草木が目に入るような形にすれば一体感が出るんじゃないかという話になりました。以上が近いところになります。

ここから外れまして、テーマごとでどんな行けるところがあるんだろうというところまでしか話をしていません。例えば、ウォーキングのコースだと距離的にかなりあるので、サイクリングコースになるのかなと思いますが、一ノ宮さんでしたらここにコース新設とかいてありますけれども、途中迂回するようなコースで、歩道も神話だとか、そういったテーマ性に合わせたような歩道にしたりと、いくらでも今後の展開次第では新設ができるんじゃないかなと思っておりますし、それぞれ健康増進ですとか、景勝地、景色のいいところとパワースポットのところがほとんどです。パワースポットみたいなのは、関わっているところがあるので、こういったものをパンフレット上でテーマごとに色分けをしたりしながらルートのご紹介ができれば、きちんとできるのかなと思います。先程先生が言われていたように、無理矢理でもいいんで、羽衣石城の羽衣をからめて、天女が通った神話のルートみたいなルートをこちらからご提案して、ストーリーをつくっていくということもこの流れからも十分できるんじゃないかなと思います。



(福井総合ファシリテーター)

ちょっと質問ですけども、この湖周完成年は何年でしょう。

(中島委員：社会資本整備チーム長)

湖周完成はですね、正直言うともっと時間がかかるかなと思ったんですが、ここの整備を

県、町の方をお願いをして、後は取りまとめさえできれば、コース自体は本当にここの工事が終われば1年半とか2年で十分できるようになると思います。

(福井総合ファシリテーター)

それともう一つ、道路交通法の強化ということで、東京なんかの場合は、自転車は車道の左端を走行するということになって、自転車をしようとするブルーレーンか何かをつくりましょうということになっていましたね。そうすると、サイクルコースについてもセットアップできるということですか。

(中島委員：社会資本整備チーム長)

そうですね。実はそこまで詳しく議論はできていないところなんですけど、一部分離できる場所、要するに湖上遊歩道のイメージは、さすがに木造の橋をガタガタ渡るというというイメージはないので、通常の道路を通っていただくという形になると思いますし、完全に歩道の拡幅があるところについては、拡幅を若干制限しながら再構築することは多分できると思います。

(福井総合ファシリテーター)

そうすると、遊歩道はがんばれば2年でできるそうです。2年でできるということは、来年色々と申請をして、計画をつくって、基本設計みたいなものをやると。そうすると、2012年から着工すると2014年ぐらいには何かできそうだと思いますよ。サイクルロードも、例えばブルーレーン設置とか、一部共用だとかというようなことも設計をした場合に、それはだいたいどれぐらいでできそうですか。

(中島委員：社会資本整備チーム長)

詳しくは分からないですけど、法律のことがあるので色々と障壁はあるかもしれませんが、今、この青色で書いたところは全部歩道が整備されたところですから、そこの利用制限を条例なりでやられるとかということであれば、青色のところだけでしたら基本的にそんなに時間はかからないかなと思います。

(福井総合ファシリテーター)

2015年ぐらいには何か完成させられそうな雰囲気は漂ってきたんですけども。

(中島委員：社会資本整備チーム長)

できると思います。

(福井総合ファシリテーター)

では拍手。(拍手)

やっぱり地図に落としてみると聞いていても分かりやすかったですよね。何かこれに対して質問などはありますか。

(佐々木委員)

全国緑化フェアの関係で、街路樹を植えたらどうかという案が出ていまして、一つは東郷荘絵図のからみで、南谷のところの河道部分ですね。非常に貴重な場所だと思うんですね。できたのは1258年ですから、750年前からある河道が今でも残っている。ですから、ここを是非、可視化というか、もう少し住民の人にも、或いは観光客の人にも、ここはそう

だったよということを示すためにも、宮戸弁天のあたりからといたら少し余分になりますけれども、南谷の付け根のあたりから特に右岸に桜を植えていただければ、非常にいい桜並木になるし、春の名所になるんじゃないかと思います。それからもう一点は、紫縄手と廣熊路というのがあるんですね。紫縄手は農道などで、廣熊路というのは桜小学校の前のおりですね。そこも750年前の通りが今でも残っているということで、そこにも例えばケヤキ並木をつくろうとか、そういうことも一つあるんじゃないかと思いました。

(福井総合ファシリテーター)

植樹というか、旧橋津川の河道ですよ。それを可視化、見える化しようという、こういう提案でした。

その他ありませんか。それでは、観光チームに発表していただきましょう。

(三ツ井委員)

観光・物産の活性化チームです。リーダーの宮川さんが途中で帰ってしまいましたので、代わって私の方がさせていただきます。社会資本整備チームのようにビシッと固まったものがほとんどできていなくて、詳しいことまで話ができないんですが、話に出たような内容をお話しさせていただこうと思います。



我々のチームとしましては、温泉を戦略的に活用すること、それから地産地消システムをつくるというこの2つの柱で、どうにかできないかということについて話をしました。その中で、温泉というのはどこの町にもあるんですけども、温泉のイメージをもっと打ち出す方向で何かできないかということで、当初から話が出ているんですけども、羽衣石の天女というものがありますので、天女を活用したイメージ戦略ができないかということで、特に、天女=美しいとか、美しくなるためには健康でないといけないとか、天女から発生するイメージで事業のコンセプトを集約して取り組んだらどうかということでまとめました。特に旅館の中では、お湯を天女の湯とか、天女の間とか、天女をキーワードに企画をつくっ

ていただいて、そこで出す食事も美しくなるということで、女性向けの、例えばコラーゲンたっぷりの料理とか、美肌の料理とか、色々あると思うんですけども、今でも多分各旅館でしておられると思うんですが、それをもう一つ天女というくくりの中でもう一回整理して打ち出しをしていくと。それで、企画をつくっていただくんですけども、旅館だけががんばっていただいてもなかなか広がりが起きないので、町全体として、イベントチームの方も話しておられるかもしれませんが、天女のコスプレをしたりとか、天女サミット、それから天女のもっとイベント的なことをしたらどうかということで話をしております。それで、羽衣石の天女だけではなくて、湯梨浜町には伯耆一ノ宮、倭文神社に下照姫命の伝説があったり、九品山にも中将姫というようなことで、お姫様があつまるまちというようなことで、天女が集まるぐらい安らげる、居心地のいい場所だということをもっとストーリーを膨らませて出していきたいなというところで話が終わってしまって、ストーリーはまた次回までに色々考えてみたいと思っておりますが、今日のところはこれで終わらせていただきます。以上です。

(福井総合ファシリテーター)

例えば、社会資本整備チームに何か申し送りたいことはありませんか。社会資本整備チームにこんなことしてほしいとか、或いはイベントチームにこんなことしてほしいとか、申し送りみたいなことはありませんか。

(三ツ井委員)

話の中で出ていたのは、天女なら天女をコンセプトに何かやろうとするとソフト的なことではなくて、ここに行けば天女に会えるというか、天女が見つけれられるというものがあるんじゃないのというような話をしていました。コースをつくる、検討しているということは聞いておりましたので、例えばコースの中に看板があるということだけではなくて、歩いているとディズニーランドのミッキーを探せみたいなきもちなのかもしれないですけど、ちっちゃくどこかに天女が見つけれられる場所があると何か歩く楽しみが増えるのかなと、そんなようなことを思ったりしていたところです。イベントについても、単発のイベントというものもあるんですが、常時お客様に来ていただこうと思えば、継続的に、定期的にできるような催しの方がいいのかなと。何月何日の一回で終わるものではなくて、ある程度の期間そこに行けばそういうことが体験できるとか、そういうものが見れるとか、何かそういうイベントの方がいいのかなということも話をしていました。

(福井総合ファシリテーター)

社会資本整備チームは、道の駅(燕趙園)を含めて、何かうまくステーションづくり、センターづくりをしようとしていますよね。燕趙園はどうなんですか。燕趙園はアンタッチャブルですか。

(三ツ井委員)

県が管理しているのでどこまで言えるか分からないですけども、例えば燕趙園自体を天女のイメージに完全につくり変えてしまおうとか、レンタサイクルが天女仕様になっているとか、そういうことも面白いんじゃないかという話も出ておりました。

(福井総合ファシリテーター)

では、拍手。(拍手)

観光・物産というのは、もちろん公共的な形で色々と応援することができても、やっぱり物をつくったり、サービスをやるというというのは民間事業者がかなりがんばらなくてはいけないということですね。そのあたりのことを皆で議論するというところは難しいところがあると思います。観光・物産とイベントはかなり重なるかなと思うんですけど、イベントチームに発表していただきましょう。

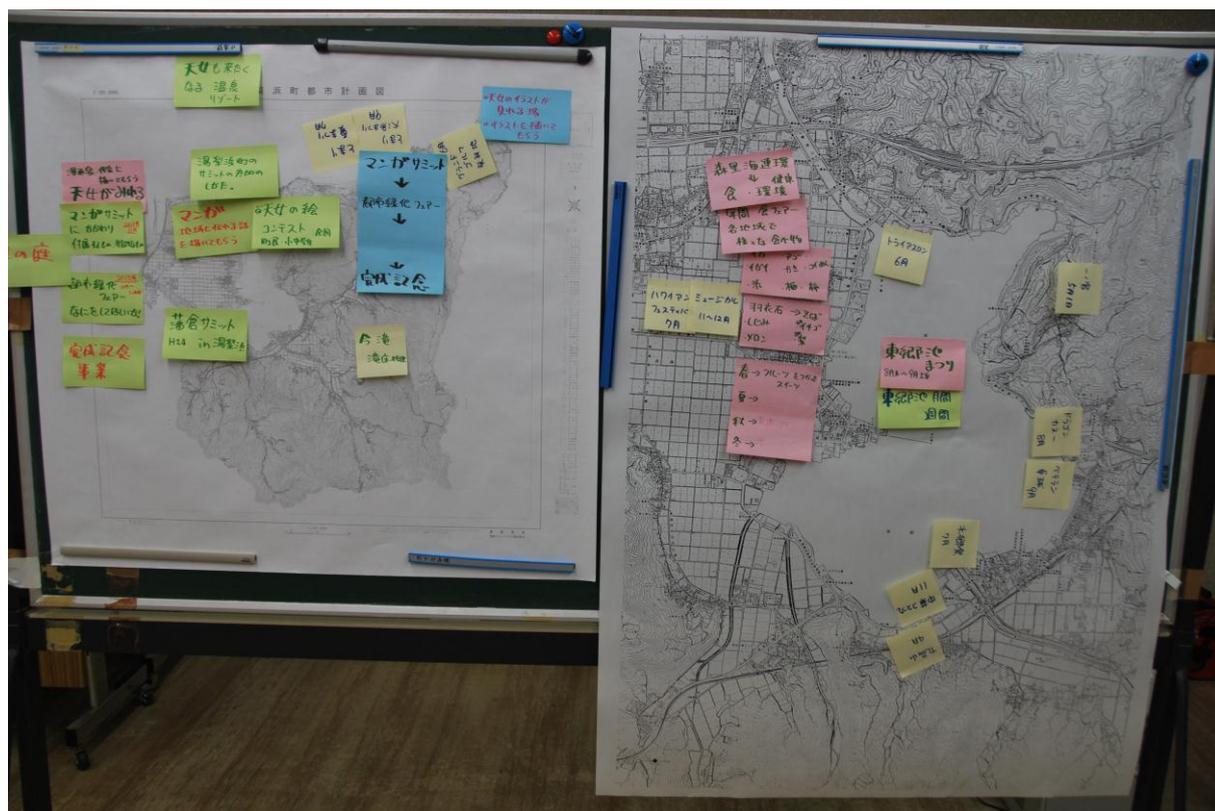
(西原委員)

イベント・コンテンツチームの西原です。我々はさらに観光・物産チームよりもソフトな事業ということで、話がなかなかまとまらにくかったんですけど、途中で先生に入ってきていただきまして、話が太筋でまとまってきたかなという感じなんですけど、一つ大きなスケジュール感を持って取り組んでいくことが必要じゃないかということです。例えば、わかとり国体に向けて早い段階から住民の皆さんにアンケートを取るなど周知をしながら、少しずつ機運が盛り上がっていくとよような、そういうイメージで事業を進めていくべきじゃないかというような話です。



先程社会資本整備チームから周回コースの話が出ていましたけど、例えばそれが計画に5年後にという話があるのなら、5年後に大きな関連イベントを、ソフト事業を色々取り組むこととして、今から1年後にはこの事業、その次には次のステップでこの事業というようなことを住民の皆さんの発案などでイベントをしてはどうかということです。その事業については、今日の資料に前回までのまとめとして出ていたんですが、天女とか、森里海の関連イベントで実施していくというようなことです。具体的には、関連イベントとして2013年の10月ですか、都市緑化フェアのネットワーク会場として東郷湖が選定されていると、候補に挙がっているということで、燕趙園の周りに天女の庭をつくるような構想があるそうで、

それにかけて女性をあがめる文化といいますか、天女に関連してアピールしていくということです。我々は今まで、何で天女だということところが、それでいいのかなという疑問に思うような意見もありました。そのあたりを整理しまして、何故天女かということと天女も湯浴みをしたくなるほどのきれいな湖のある場所というような、それが今も変わらず残っているというような整理でいこうという機運になっています。それと、隣の倉吉市が天女でアピールしていますけど、そこの関係はどうかという気持ちもあつたんですけど、競争ではなくて、一緒にセットで売り出していけばいいんじゃないかと。それから、全国で5箇所ぐらい天女でまちおこしをしているところがあるらしいんですけど、温泉と結び付いている場所はここを加えても数少ないということで、そこで倉吉市との棲み分けもできていくんじゃないかというような話でした。それと関連イベントとしてマンガサミットがあるということで、これにかけて天女をアピールしていく。例えば、意見があつたのが、来られる皆さんに天女のマンガを書いていただいて、きちんとストックしておくことで色々な場所で使えるということです。後、町民参加型ということにするのであれば、公募をして天女のイラストを描いて活かしていくという発想もあるということです。それから、野外ミュージカルを周回コースの記念イベントの時に、天女に関するイベントを野外でやったりとか、そういうこともできるんじゃないかという意見も出ていました。



それから、森里海の連携プロジェクトということがあつたんですけど、具体的に何をしていくかという話になるとなかなか難しいと。例えば、ドラゴンカヌーを橋津川でやっただけという話もあつたんですけど、実際に関わられる方の意見を聞いてみると、砂が川から流れてきて、すごく浅くなっているということで難しいと。回り場も必要ですし、そういう色々

な問題も出てきたりしてなかなか難しいなという話で、食でアピールしていくことができるんじゃないかというような意見が出ていました。羽衣石のそばですとか、泊のカキも海のミネラルが流れ込んで生育するものであるということなら、森里海にピッタリではないかという意見がありました。その他にも色々な食が、梨やシジミなども関連付けていけるとというような意見でした。後、スポーツプログラムを主体で関連付けていくのが面白いんじゃないかということで、例えばグラウンド・ゴルフをもっと湖の周りで、燕趙園などで皆さん賑わっておられますけど、他に芝があるので自由に使っていただくようなことがいいんじゃないかということが出ていました。以上です。

(福井総合ファシリテーター)

社会資本整備チームとか、観光・物産チームに何か申し送りたいことがありますか。

(西原委員)

議論の中で出ていたのは、最初に言いましたけれども、社会資本整備チームについては、ビシッとこの時期にコースができるということをしちんと言っていたきたいということですね。そこに向けて、ソフト事業でそれより1年前、2年前という具合に組み立てていくので、できれば早い内に、明確に、県の事業ということがあるかもしれないですけど、そのあたりをお願いしたいということと、観光・物産チームについては、天女をアピールするという意味で、旅館でショールをお客さんにサービスされるというのは面白いんじゃないかということがありました。気に入られたら買って帰られてもいいですし、それをさくら工芸品工房でつくったりというのも面白いんじゃないかというような意見が出ていました。

(福井総合ファシリテーター)

最後のアイデアは、やっぱり女性はですね、赤ちゃんもおばあちゃんもすべて湯梨浜町のホテルや旅館に来られて、ショールをかけていただく。できれば、麻でつくったものでしょうね。昔ですから。麻か絹、絹は高いから麻でもいいかもしれませんね。それを何となく「いらっしゃい」と言った時に、サッと旅館の仲居さんが肩にかけてくれる。「何これ」・・・「天女の気持ちになるでしょ」と言って、「帰る時に返してください」と。気に入ったら売店で売っています。「どこでつくったの」・・・「さくら工芸品工房でつくったんです」。例えば、そういうような遊び心が欲しいですね。そういう気持ちをやるためには、誰かがやらなくてはいけないんですが、そういうものをやってみるのに社会実験としてはイベントがいいんです。私も「平城遷都1300年」でなりきりウオークというのをやったんです。1時間半500円で、要するにコスプレですね。平城京の時の女性の衣装を借りられる。1時間半経っても帰ってこないんです。それで、平城京の大極殿の中を歩くことができる。そういうものですよ。それは、歴史文化を学ぶとか、その土地の持っている物語を知る大きなきっかけにできるんですね。いっぱい説明して、こんなに湯梨浜はいいところですよと説明しても、なかなか理解してくれない。ところが、ちょっとしたきっかけを感じた時に、これはこういうものなんですよと町民がちょっと言える、それがあると全然違いますよね。

今日は、冒頭言いましたけれども、朝のNHKの番組で確か10分ぐらい、燕趙園のところで野花豊後の梅ジャムとか、シジミとかを見せてくれましたよ。毎日どこかでやっている

んですから、何かシジミの話でいうと宍道湖だったかなというような記憶で心にスイッチされてしまう。ところが、先程も言いましたけれども、「これは天女の涙なんです」と言う。「何それ」というようなね。つまり、ソフトを軸にしながら、いくつか先程おっしゃいましたけれども、「天女も湯浴みをしたくなるぐらい美しく気持ちのいい場所、それはここです」そういういわば誇りと言いますかね。そういうものをしっかりと戦略的に組み立てるためのコミュニケーションの手法、或いはそういう運動みたいなものをつくっていく必要がある。結果は、東郷湖そのものがすばらしいものでなくてはいけないということですね。その価値をさらに高めるために、湖周の周回コースの創造運動というものをやったらどうかということになる訳であります。それで、ちょっと私のアイデアで、南コースと北コースとかね。前来た時にはこちらのコースを回ったので、今度はこちらを回らないと完歩証がもらえないので、今度来た時にはこちらを回りたいとあって、ポンポン船でも何でもいいですけども、湖の東と西を結ぶ湖上のいわば短縮コースルートみたいなものがありますということですね。これは、人気が出てくると結構うけるんじゃないかという気がしますね。ですから、そういう意味で、観光の話、イベントの話などを含めて全部関係している訳ですよ。昔は、ハードとソフトという具合に言った訳ですけども、今それは全部、ぐるぐると回っているということになりますので、そのあたりのところを今日2時間話していただいただけでも実は話は尽きないと思いますけれども、そういう話のつながりがとても今後大事なんじゃないかなと思います。



これからの全体の流れで言いますと、12月9日に第3回の全体会議をやらせていただくということなのですが、今日の議論とか、前回の分科会の流れみたいなものを、もう一回分科会をやるというチームがありましたら分科会をやっていただいてもいいと思いますけれども、ある程度12月9日までは今まで出てきた色々な議論を若干整理して、勝手に整理するなと怒る人もいるかもしれませんが、やっぱりある程度整理をすることが必要です。色々なもののスピード感を町の方で、ハードのことも含めて、予算のことも含めてやらないと皆でワイワイやっても決まらないですね。そういうことで、その整備のスケジュールみたいなものも整理をして、先程やったマンガサミットが来年あるぞとか、2013年には都市緑化フェアのネットワーク会場になるぞとか、もしかしたら2015年ぐらいには全周完成記念事業みたいなものもやってもいいかもしれないというような、そういうスケジュールも少し整理をして、そこでハードの側でやらなくてはいけないこと、ソフトの側でやらなくてはいけないこと、それからイベントという特別なステージをつくることによって皆の目標ができるという、そういうものの戦略的な配置みたいなものを企画調整チームの林係長を中心に一回まとめてもらいませんか。よろしいですね、皆さん。(了解) そのまとめてもらったものを12月9日にプレゼンしてもらいましょうよ。これは違う、これはこうだという意見を具体的にしていけないときとなかなか深化しないんだらうなと思います。それから、整備ものとか、サミットものについては、町としてどういう具合に仕掛けていくのかということと助成金の問題がありますので、例えば11月中に手当をしなくてはいけないものについては先行していただく。皆さん、それでいいですね。先行していただくものは先行していただくという形で、今までの全体的な流れも町長の頭の中にあると思いますので、12月9日に今までの議論みたいなものを少しまとめた上で、皆さんにプレゼンテーションをしてもらうのが12月9日。結構忙しいですけども、よろしいですね。そして、その場で皆さんは何をやるか。これを我々町民で共有するためには何が必要なのか、外と結び付くには何が必要なのかというようなことを今度は分科会という区分けではなくて、分科会と一緒にしながら、最初の時のように分かれてどうすれば町民に理解してもらえるのか、協力してもらえるのか、それから、外の部分とどういう具合に連携できるのか、そういうことについて、少しこのプロジェクトを広げるためのアイデア、考え方、そういうところを議論していただきたいと思う訳であります。よろしいですか。(了解)

少し強引なまとめでございましたけれども、時間の関係もありまして、何とか第2回はこれで終わりたいと思います。どうもありがとうございました。(拍手)

(事務局：林)

最後に、副会長よりごあいさついただきたいと思います。

(立木副会長)

今日はどうもご苦労様でした。天女がつい湯浴みをしたくなった東郷湖のほとりに住んでいる幸せを感じます。女性がいきいき楽しい町にどんどんなっていくような気がします。女性がニコニコ楽しいと男性もうれしいと思いますので、またそうなるようにがんばりましょう。よろしくをお願いします。(拍手)

(事務局：中本企画課長)

ありがとうございました。それでは、最後にもう一度連絡ということで、今度は12月9日に第3回会議ということで皆さんにお集まりいただきたいと思います。また、文書については送付させていただきたいと思いますので、よろしくお願いたします。

それでは、最後にもう一度、福井さんに拍手を送りたいと思います。(拍手)

本日は閉会いたします。ありがとうございました。